

松坂 七日市
警察署 分署

飯高郡
七日市 村
飯高郡之内 二十六ヶ村

三百八十

| | | |
|-------|-----------------------|-------------|
| 相可警察署 | 相可警察署 | 飯高郡之内 二十六ヶ村 |
| 山田警察署 | 相可氣郡 山出岡本郡 | 飯高郡之内 二十六ヶ村 |
| | 多氣郡 壹圓 | 飯高郡之内 二十六ヶ村 |
| | 度會郡之内 三十九ヶ村 百五十九ヶ村 | 飯高郡之内 二十六ヶ村 |
| 字 治 | 度會郡之内 三十九ヶ村 百五十九ヶ村 | 飯高郡之内 二十六ヶ村 |
| 館 町 | 度會郡之内 三十九ヶ村 百五十九ヶ村 | 飯高郡之内 二十六ヶ村 |
| 浦田町 | 度會郡之内 三十九ヶ村 百五十九ヶ村 | 飯高郡之内 二十六ヶ村 |
| 古市町 | 度會郡之内 三十九ヶ村 百五十九ヶ村 | 飯高郡之内 二十六ヶ村 |
| 山田町 | 度會郡之内 三十九ヶ村 百五十九ヶ村 | 飯高郡之内 二十六ヶ村 |
| 倭町 | 度會郡之内 三十九ヶ村 百五十九ヶ村 | 飯高郡之内 二十六ヶ村 |

岩淵町 吹上町 河崎町
船江町 一之木町 宮後町
出中々瀬古町 豊川町 一志久保町
大世古町 八日市場町 曾禰町
下中郷町 常盤町 浦口町
二俣町 辻久留町 中嶋町
宮川町 勢田村
藤里村 旭村 前山村
大倉村 佐八村 津村
横輪村 下村 菖蒲村
上野村 床ノ木村 圓座村
神園村 上野村 川口村
栗原村 中ノ郷村 日向村
五ヶ町村 小川村 火打石村
駒ヶ野村 小菰村 柳村
和井野村 市場村 脇出村
川上村 當津村 田間村
上久具村 下久具村 鮫川村
立岡村 大久保村 平生村

官制門 區畫及配置

三百八十一

| | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|-----|-----|-----|-----|-----|------|-----|-----|------|--------|------|------|-----|------|-----|-------|------|-----|------|
| 矢野村 | 上田村 | 田宮村 | 南中村 | 鹿海村 | 松下村 | 山原村 | 西原村 | 通原村 | 田尻村 | 馬瀬村 | 大湊村 | 新開村 | 高向村 | 檜原村 | 植山新開村 | 柏原村 | 葛原村 | 牧戸村 |
| 坂本村 | 岡村 | 勝田村 | 田丸村 | 楠部村 | 朝熊村 | 三津村 | 莊村 | 一色村 | 神田久志本村 | 竹ノ鼻村 | 神社港村 | 上條村 | 長屋村 | 野依村 | 有瀧村 | 東大淀村 | 小俣村 | 棚橋村 |
| 門前村 | 野籾村 | 下田村 | 蚊野村 | 北中村 | 一字田村 | 江口村 | 溝口村 | 今一色村 | 黒瀬村 | 小木村 | 下野村 | 小林村 | 王中島村 | 磯村 | 十路西條村 | 村松村 | 野村 | 大野木村 |

三百八十二

| | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|-----|-----|------|-------|-----|-----|-----|-----|-----|------|------|-----|------|------|------|-------|-----|------|------|
| 世古村 | 山神村 | 湯田村 | 小社會根村 | 山岡村 | 積良村 | 岡出村 | 東原村 | 中須村 | 麻加江村 | 注連指村 | 野添村 | 崎瀨川村 | 三瀬川村 | 船木村 | 齋田村 | 舟越村 | 切原村 | 檜山村 |
| 井倉村 | 久保村 | 玉川村 | 上地村 | 中角村 | 岩出村 | 畫田村 | 川端村 | 長原村 | 大内山村 | 阿曾村 | 金輪村 | 打見村 | 阪井村 | 伊勢路村 | 中津濱浦村 | 飯滿村 | 神津佐村 | 下津浦村 |
| 新樂村 | 富岡村 | 妙法寺村 | 佐田村 | 長更村 | 宮古村 | 栗野村 | 野後村 | 田口村 | 永倉村 | 柏野村 | 神原村 | 野原村 | 始神村 | 内瀬村 | 五ヶ所浦村 | 泉村 | 下津浦村 | 下津浦村 |

官制門 區畫及配置

三百八十三

| | | | | |
|-------|--------|--------|-------|------|
| | 上野警察署 | 木ノ本警察署 | 尾鷲警察署 | |
| | 上野平田分署 | 阿拜之内 | 北牟婁郡 | |
| | 山田郡 | 阿拜郡 | 北牟婁郡 | |
| 富永村 | 山田郡之内 | 阿拜郡 | 北牟婁郡 | 立神村 |
| 運池村 | 山田郡之内 | 阿拜郡 | 北牟婁郡 | 甲賀村 |
| 鳳凰寺村 | 山田郡之内 | 阿拜郡 | 北牟婁郡 | 名田村 |
| 富岡村 | 山田郡之内 | 阿拜郡 | 北牟婁郡 | 片田村 |
| 甲野村 | 山田郡之内 | 阿拜郡 | 北牟婁郡 | 越賀村 |
| 千戸村 | 山田郡之内 | 阿拜郡 | 北牟婁郡 | 御座村 |
| 真泥村 | 山田郡之内 | 阿拜郡 | 北牟婁郡 | 布施田村 |
| 畑村 | 山田郡之内 | 阿拜郡 | 北牟婁郡 | 北牟婁郡 |
| 平田村 | 山田郡之内 | 阿拜郡 | 北牟婁郡 | 南牟婁郡 |
| 中田村 | 山田郡之内 | 阿拜郡 | 北牟婁郡 | 南牟婁郡 |
| 中友生村 | 山田郡之内 | 阿拜郡 | 北牟婁郡 | 南牟婁郡 |
| 下友生村 | 山田郡之内 | 阿拜郡 | 北牟婁郡 | 南牟婁郡 |
| 山田郡之内 | 山田郡之内 | 阿拜郡 | 北牟婁郡 | 南牟婁郡 |
| 二十二ヶ村 | 山田郡之内 | 阿拜郡 | 北牟婁郡 | 南牟婁郡 |

| | | | | |
|-------|--------|-------|--------|--|
| | 鳥羽警察署 | 鳥羽警察署 | 山田警察署 | |
| | 鳥羽波切分署 | 鳥羽志郡 | 山田神前分署 | |
| | 英虞郡 | 鳥羽志郡 | 神前郡 | |
| 英虞郡之内 | 鳥羽志郡 | 鳥羽志郡 | 神前郡 | |
| 十二ヶ村 | 鳥羽志郡 | 鳥羽志郡 | 神前郡 | |
| 神明浦村 | 鳥羽志郡 | 鳥羽志郡 | 神前郡 | |
| 梅山路村 | 鳥羽志郡 | 鳥羽志郡 | 神前郡 | |
| 南張村 | 鳥羽志郡 | 鳥羽志郡 | 神前郡 | |
| 濱島村 | 鳥羽志郡 | 鳥羽志郡 | 神前郡 | |
| 鹽屋村 | 鳥羽志郡 | 鳥羽志郡 | 神前郡 | |
| 七ヶ村 | 鳥羽志郡 | 鳥羽志郡 | 神前郡 | |
| 英虞郡之内 | 鳥羽志郡 | 鳥羽志郡 | 神前郡 | |
| 道行竈 | 鳥羽志郡 | 鳥羽志郡 | 神前郡 | |
| 大方竈 | 鳥羽志郡 | 鳥羽志郡 | 神前郡 | |
| 古和浦 | 鳥羽志郡 | 鳥羽志郡 | 神前郡 | |
| 費浦 | 鳥羽志郡 | 鳥羽志郡 | 神前郡 | |
| 河内村 | 鳥羽志郡 | 鳥羽志郡 | 神前郡 | |
| 健柄浦 | 鳥羽志郡 | 鳥羽志郡 | 神前郡 | |
| 度會郡之内 | 鳥羽志郡 | 鳥羽志郡 | 神前郡 | |
| 十八ヶ村 | 鳥羽志郡 | 鳥羽志郡 | 神前郡 | |
| 栗木廣村 | 鳥羽志郡 | 鳥羽志郡 | 神前郡 | |
| 山原村 | 鳥羽志郡 | 鳥羽志郡 | 神前郡 | |
| 浦田會村 | 鳥羽志郡 | 鳥羽志郡 | 神前郡 | |
| 浦相賀浦 | 鳥羽志郡 | 鳥羽志郡 | 神前郡 | |
| 追問浦 | 鳥羽志郡 | 鳥羽志郡 | 神前郡 | |
| 度會郡之内 | 鳥羽志郡 | 鳥羽志郡 | 神前郡 | |
| 十八ヶ村 | 鳥羽志郡 | 鳥羽志郡 | 神前郡 | |

| | | | |
|-------------|---|-------------|---------------------------------------|
| 名張警察署 | 名張郡 | 名張郡 壹圓 | 中馬野村 川北村 廣瀬村 坂下村 |
| 伊賀郡之内 二十六ヶ村 | 藏繩手村 鍛冶屋村 東谷村 南村 安塲村 湯屋谷村 葛蒲池村 界外村 予野村 桂村 大瀧村 治田村 白樫村 猪田村 新田村 上小波田村 下小波田村 東田原村 上之庄村 山出村 笠部村 依那具村 市部村 沖村 才良村 | 伊賀郡之内 三十三ヶ村 | 阿保村 寺脇村 岡波村 比自岐村 摺見村 岡田村 下河原村 北山村 勝地村 |

| | | | |
|--|--------------------|-------------------|--|
| 計警察署一五 分署七 | ○乙第四十四號 明治十九年三月二十日 | 警察本署 警察署 分署 | 明治十八年六月警甲第十號達巡查配置人員別紙ノ通改正 シ來ル四月一日ヨリ實施ス 右相達候事 |
| 妙樂寺村 瀧村 伊勢地村 柏尾村 奥鹿野村 福山川村 諸木村 老川村 腰山村 霧生村 高尾村 種生村 川上村 羽根村 柎川村 別府村 森寺村 上神戸村 上郡村 下郡村 下神戸村 比土村 上林村 古郡村 | | | |

官制門 區畫及配置

| | | | | | | | | | | | | | | | |
|--------------|-------------|--------------|--------------|------------|------------|------------|------------|-------------|------------|-------------|------------|------------|------------|--------------|------------|
| 松阪警察署 | 同久居分署 | 津警察署 神戶分署 | 津警察署 | 上野 | 一身田 | 棕本 | 足阪 | 神戶 | 白子 | 久居 | 三渡 | 大村 | 奥津 | 松阪 | 豊原 |
| 二十六人 内同六人 | 二十人 内同五人 | 十三人 内同四人 | 四十四人 内同八人 | 五人 内同一人 | 五人 内同一人 | 五人 内同一人 | 五人 内同一人 | 十三人 内同四人 | 五人 内同一人 | 二十人 内同五人 | 五人 内同一人 | 五人 内同一人 | 五人 内同一人 | 二十六人 内同六人 | 四人 内同一人 |

巡查配置人員表

| | | | | | | | | | | |
|------|------|---------------|-------------|--------------|--------------|------------|------------|------------|-------------|------------|
| 署名 | 警察本署 | 桑名警察署 | 桑名南大社分署 | 四日市警察署 | 四日市警察署 | 東富田 | 菰野 | 追分 | 關 | 石藥師 |
| 在勤ヶ所 | 本署 | 桑名 | 南大社 | 四日市 | 四日市 | 東富田 | 菰野 | 追分 | 關 | 石藥師 |
| 人員 | 四人 | 二十三人 内監督六人 | 十四人 内同四人 | 三十三人 内同八人 | 三十三人 内同八人 | 五人 内同一人 | 五人 内同一人 | 五人 内同一人 | 十五人 内同四人 | 五人 内同一人 |

| | | |
|------------------------------|----|----|
| 久居警察署 | 二人 | 三人 |
| 縣南大社 神戶相可 鳥羽尾懸 木本名張 | 二人 | 二人 |
| 分署 | 一人 | 一人 |

但分署雇員ハ事務繁閑ニ依リ警察署雇員ト流融スルヲ得

○三重縣訓令第八百一號 明治二十年六月二十九日

警察署
分署

警邏管區設定及駐在員服務規定左ノ通相定ム

警邏管區設定及駐在員服務規定

第一節 區畫及線路ノ編成

第一條 警察署分署部内ヲ第二條ノ標準ニ從ヒ分畫シテ警邏管區トナス

警邏管區ハ某署第一警邏管區或ハ某署某分署第一警邏管區ト順次數字ヲ冠シ名稱ス但署所在區ヲ以テ第一トス

第二條 管區ハ左ノ各項ヲ標準トシ尙地形ノ便否人口ノ粗密線路ノ摸樣ヲ斟酌シテ區畫ス
一人口二千乃至三千

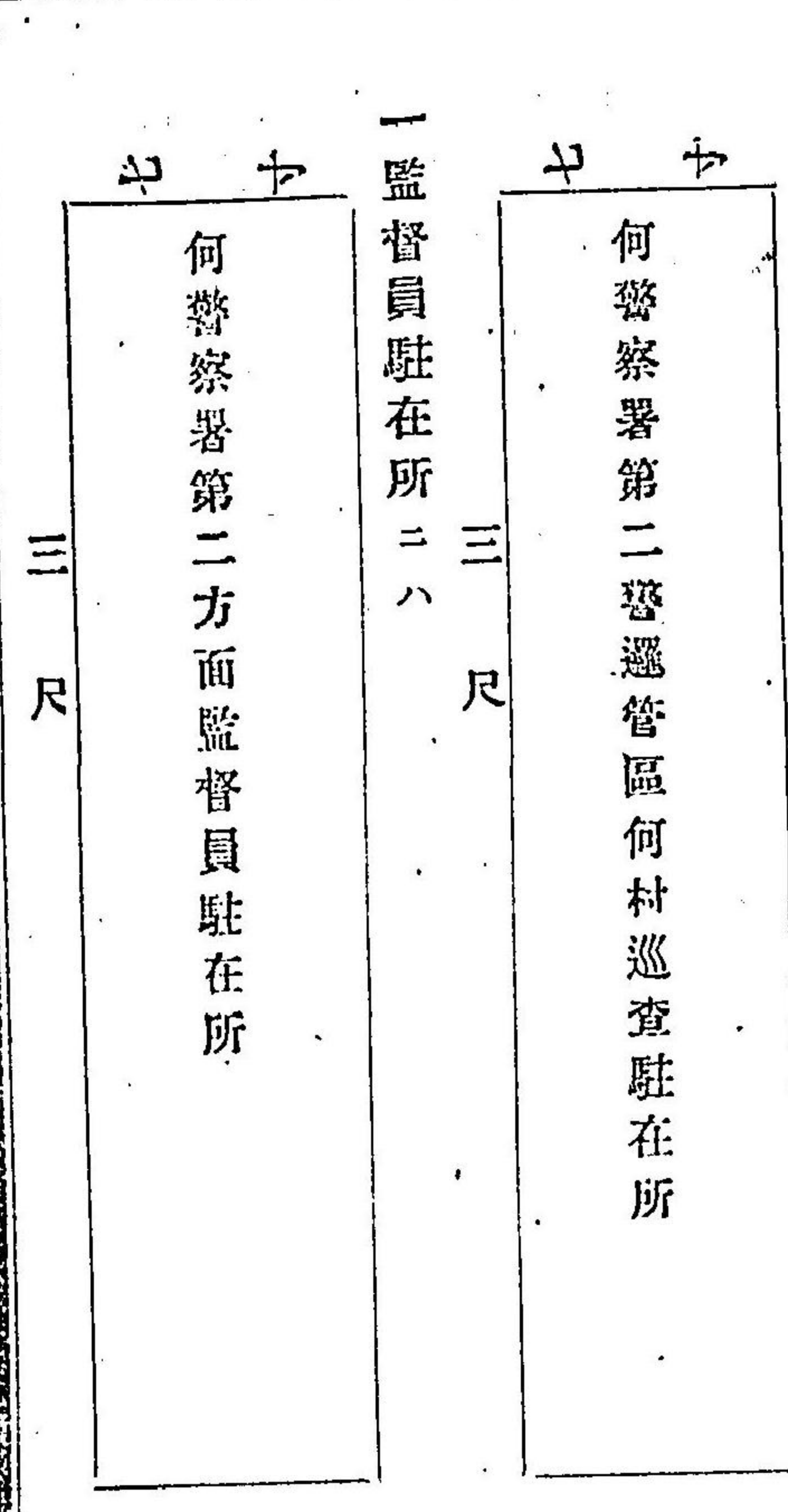
二一晝夜ニ一回以上巡邏シ得ルヲ
三山間僻陬ノ村落等人家稀粗ノ地ニテ前二項ニ依リ難キ場所ハ二倍マテ増加スルヲ得

四一晝夜ノ巡邏ハ六里ヲ定度トス

第三條 一管區ニ巡査一人ヲ駐在セシム但區畫ノ都合ニ依リ第二條ノ標準ヲ二倍シ二人駐在セシムルヲ得此ノ場合ニ於テハ其管區ヲ二分シ受持ヲ定メ分擔セシモノトス

第四條 署所在地及市街宿驛等ニテ人家稠密ノ場所ハ前
 二條ニ拘ハラス別ニ方法ヲ定ムルヲ得此ノ場合ニ於テ
 モ其管區數部ニ分テ巡查一人ノ受持ヲ定ムルヲ要ス
 第五條 各署部内ヲ劃シ左ノ各項ヲ標準トシ監督區ヲ定
 ム又地形ニ依リ必要ノ場所ハ其區内ニ監督員一名ヲ駐
 在セシム
 其監督區ハ某署第一方面或ハ某署某分署第一方面ト順
 次名稱ス
 一二管區以上聯合スルコト
 二署所在地又ハ監督員駐在地ヨリ宿泊ヲ要セスシテ巡
 回シ得ラル、コト但不得己場所ト雖モ二泊ヲ超スルヲ
 得サルモノトス
 三監督員ヲ駐在セシムル方面ヲ除ク外管區ニ依ルル
 ハ巡回ノ不便ナル場合ニ於テハ別ニ其區域ヲ定ムル

ヲ得ルコト
 四署所在其他別ニ監督巡回法ヲ定ムルヲ便宜トスル場
 所ハ方面ニ加ヘサルモノトス
 第六條 駐在所ニハ左ノ標札ヲ揭示スヘシ
 一 巡查駐在所ニハ
 鐘形



第九條 署及各駐在巡查ノ聲息ヲ交通スル爲メ便宜互報線ヲ設クヘシ

第十條 駐在所ニ日誌ヲ備ヘ左ノ各項ヲ其卷首ニ記載シ置クヘシ

一 巡邏線路ノ町村名字名路次行程時限線名

二 戸長筆生及村中重立タル者ノ住所氏名

三 勤務方法ノ細目

第十一條 駐在巡查ハ晝夜ノ別ナク常ニ職務ニ服シ時間

ニ定限ナキモノトス

第十二條 一ヶ月ニ五日以内ノ休暇ヲ與ルヲ得

但二日以上繼續セシムヘカラス

第十三條 毎月休暇ノ日ヲ以テ一度若クハ二度某屬署ニ

召集シ点檢及訓授スヘシ

第十四條 駐在監督員ノ勤務ハ第七條第二第三項及第十

一條第十二條第十三條ノ例ニ從フヘシ

第十五條 警察署長ハ前各條ニ從ヒ管區方面線路及勤務

方法細目ヲ査定シ本部長ノ認可ヲ經テ施行スヘシ

◎巡邏查察

○警甲第十四號 明治十七年十二月廿五日

警察署

警規第十七號乃至同第三十三號ヲ以テ方面巡視規則以下別紙ノ通り被相達候條此旨相達候事

警規第十七號

警察本署

方面巡視規則左ノ通相定候條此旨相達候事

明治十七年十二月廿二日

三重縣令内海忠勝

方面巡視規則

第一條 方面巡視ノ要ハ警察事務ノ舉否并ニ其執行上ノ

便否ヲ視察スルモノニシテ其巡視スヘキ方面ヲ分ツ
 左ノ如シ

第壹方面
 神戸 四日市 南大社 桑名ノ四警察署及ヒ其分署

第二方面
 關 上野名 張 久居ノ四警察署及其分署

第三方面
 津 松坂 山田 鳥羽ノ四警察署及其分署

第四方面
 相可 尾鷲 本 本ノ三警察署

第二條 監督部ノ警部警部補ハ警察本部長ノ命ニ依リ時々方面ヲ巡視スヘシ

第三條 巡視警部警部補ハ警察署分署見張所ヲ巡行スルヲ常トスト雖モ時宜ニ依リ郡役所長役場又ハ巡查巡回

線路ニ就テ視察スルコトアルヘシ

○明治二十年警規第二十三號達(本文ハ警察官容儀之部ニ在リ)

巡查巡邏心得

第一條 安寧ヲ護リ非違ヲ警ムルハ警察ノ本務ニシテ其目的ヲ達スルコトハ一步一事ニ觸ル、毎ニ注察ヲ怠ルヘカラズ

第二條 巡邏及見張中ハ其姿勢ヲ正フシ動作ヲ慎ミ苟クモ他ノ侮慢ヲ招カサル様注意スヘシ

第三條 歩々足並ヲ亂サス徐々トシテ巡行シ事由アルコト非ラザレハ輒シ急歩又ハ停立或ハ斜メニ歩スルコトナカルヘシ但巡行シテ村々ニ涉ルノ途中人家無之地ノ如キハ此限ニアラズ

第四條 故ナク巡行警路外ニ出テ若シハ定路ノ巡行ヲ欠キ或ハ見張所等ヲ離ルヘカラズ又正當ノ事故ニ依リ其

持切ヲ離レタルキト雖モ可成速ニ舊路ニ復スヘシ

第五條 前條持切ヲ離レタル時ハ速ニ其事由ヲ監督員ニ申告シ監督員ハ之ヲ署長ニ報告スヘシ

第六條 人民ヨリ事故アリテ其處分ヲ請求スルキハ速ニ之ニ應スヘキハ勿論ナリト雖モ決シテ輕擧ノ取扱ヲナスヘカラズ

第七條 巡邏及見張中ハ他人ニ對シテハ勿論同僚ト雖モ私談戲言ヲナシ又ハ飲食吹煙買物等ヲナスヘカラス

第八條 巡邏中故ナシ人家ニ立入り又ハ佇立シテ店頭ノ列品ヲ覗見シ若シハ家宅構内ヲ透見スル等ノ所爲アルヘカラズ

第九條 見張中ハ私ニ書見筆寫等ヲナスヘカラズ

第十條 部内ノ町名番地及其地理方角等ヲ聞合スル者アルキハ丁寧ニ指示スヘシ

第十一條 異常ノ煙氣焦臭又ハ家内ニ於テ非常ノ喧噪等アルキ認メタルキハ其場ニ臨ミ原由ヲ聞糺スヘシ

第十二條 夜間門戸ノ不締就中雨戸裏口ノ開放或ハ干物其他物品ノ取収メ方等ヲ遺忘セシモノアルキ認メタルキハ其家人ニ就テ注意ヲ加フヘシ

第十三條 通行人ノ携帶品ヲ取落シ又ハ車馬ノ積荷墮落セントスルキ認メタルキハ其本人ニ注意スヘシ

第十四條 路上ニ於テ發病若シハ負傷セシ者アルキ認メタルキハ懇切ニ之ヲ介抱シ又行倒等ノ死者アルキハ假ニ手當ヲナシ速ニ上官ニ申報スヘシ

第十五條 爭鬪又ハ喧嘩口論ヲナス者アルキ認メタルキハ穩ニ之ヲ制止シ而シテ双方ニ於テ示談ニ及フ者ハ后来ヲ戒メ其情狀重クシテ不問ニ付シ難キ者ハ警察署又ハ分署ニ連行スヘシ

第十六條 皇族大臣外國公使其他貴顯ノ通行アルトハ道筋等妨害ナキ様殊ニ注意ヲ加フヘシ

第十七條 火藥危害品其他犯罪人等護送ノ際ハ其主管者アリト雖モ巡邏ノ者ニ於テモ亦注意ヲ加フヘシ

第十八條 巡邏中尙注意スヘキ要件左ノ如シ

一 外國人物品購求若クハ休憩等ノ際傍人ノ群集ヲ制止スルヲ

二 故ラニ人ノ背后ニ近隨シ又ハ面前ニ立塞リテ迷惑セシムル等ノ事アルトハ之ヲ制止スルヲ

三 群集雜沓ノ際ニハ常ニ拘摸喧嘩等ノ虞アルヲ以テ之ヲ認察スルヲ

四 出入口ニアラサル場所ヨリ出入シ又ハ物品ヲ持出ス者ノ事

五 夜間盜品ニ疑ハシキ物品ヲ帶行シ又ハ運搬スル者

ノ

六 深夜他ノ門戸ヲ窺ヒ又ハ陰所ニ潜伏スル者ノ

七 面部ヲ隠クシ若クハ洗足ニテ通過シ或ハ雨天ニ非ラスシテ人力車ノ母衣ヲ覆フ等其風体怪シキモノ

八 刀劍短銃又ハ之ニ紛ハシキ器具ヲ隱ニ携帯スル等怪シキ摸樣アル者ノ

九 兇器ヲ帶行シ又ハ血痕アル衣服ヲ着用シ若クハ負傷シテ怪シキ摸樣アルモノ、

十 兇器或ハ血痕アル者其他犯罪ノ用ニ供シ若クハ供スヘキ器具及贓品ト疑ハシキ物品ノ遺棄隱匿ニ係ル事

十一 異常ノ形相例ヘハ婦女ニシテ亂髮洗足ニテ疾走其他投身又ハ縊死セントス者ノ事

十二 路上ニ於テ猥褻ノ所爲アル者ノ事

十三 禁止アル土手ニ上リ亦ハ路傍ノ樹木ヲ折損スル者ノ事

十四 紙屑拾ヒ履物直シ等ニ不正ノ所爲ナキヤノ事

十五 浮浪者乞丐者ノ事

十六 棄兒迷子ノ事

十七 瘋癲人醉狂人ノ事

十八 逸走獸畜ノ事

十九 狂犬猛獸ノ事

○明治廿年警規第廿四號達(本文ハ各所勤務法ノ部ニ在リ)

巡查監督法

第一條 警部警部補警部補代理巡查ハ部内ヲ巡視シテ巡

査ヲ監督スルモノトス

第二條 監督ヲ分テ左ノ三種トス

一 直轄警邏管區監督

二 駐在所監督

三 駐在所警邏管區監督

第三條 直轄警邏管區監督及駐在所警邏管區監督ハ各區

内線路ノ町村ヲ巡視シ駐在所監督ハ駐在所ヲ巡視スル

モノトス

第四條 監督巡視ハ左ノ程度ニ従フモノトス但直轄警邏

管區ノ巡視程度ハ警察署長ノ定ムル所ニ依ル

一 駐在所 警部警部補ノ内月二回以上警部補代理巡
査ノ内月三回以上

一 駐在所警邏管區 警部警部補ノ内二ヶ月一回以上
警部補代理巡查ノ内月二回以上

第五條 警察署長ハ二ヶ月一回以上管内分署及駐在所ヲ
巡視監督シ六ヶ月ニ一回管内各村ヲ巡視監督スルモノ
トス

第六條 分署長ハ月二回以上其管内駐在所ヲ巡視監督シ月一回以上管内各村ヲ巡視監督スルモノトス

第七條 方面駐在監督員ノ巡視程度ハ別ニ定ムル所ニ依ル

第八條 監督員ハ巡視ノ際駐在所ニ備付アル日誌及各地ニ配付セル巡回表ヲ檢閲シ之レニ日時ヲ記シ認印スヘシ

第九條 監督員ハ巡視中檢視檢地ヲ要スル事件ハ勿論其他ノ事件ニシテ自己ノ職權内ニ屬スルモノハ便宜相當處分スヘシ重大事件ハ一面署長ニ急報スルモノトス

第十條 監督員ハ巡視中ノ景況ヲ其時々署長ニ具狀スヘシ

第十一條 方面駐在監督員ハ十日毎ニ前條ノ景況ヲ具狀スヘシ

但急速ヲ要スルモノハ此限ヲアラズ

◎戸口調査

○告示第百十三號 明治十五年十二月廿一日

戸口調査ノ儀ハ警察上必用ニ付臨時所屬警察署員ヲシテ各戸ニ就キ人口ヲ調査セシムル儀モ可有之候條此旨告示候事

○明治十六年警甲第一號達 (本文司法門ニ在リ)

第三十三節 戸口調査

第一條 戸口調査ハ非直巡査ヲ以テ之ヲ行フヲ常トスト

雖ニ時宜ニ依リ當直巡査ヲシテ調査セシムルヲ得

第二條 戸口調査ハ警察署分署部内ヲ適宜區畫シ二名以上ノ巡査ヲシテ一區畫ヲ擔當セシムルモノトス

但人少ニシテ二名以上ニナシガタキハ一名トナシモ

明治十七年警規第三十三號ヲ以追加

苦シカラズ

第三條 戸口調査ハ巡查擔當區内ノ住民ヲ左ノ三種ニ區別シ警部監督巡查ノ内其當否ヲ審定スヘシ

一 甲種

一 資産常職アリテ平素ノ行狀ニ疑ナキ者

二 乙種

一 常職ナキ寄留人若クハ寓居人

一 裏長屋ニ居住スル貧民

一 車夫馬丁馭者及ヒ之ヲ雇役營業スル者

一 數多ノ使役人アル家

一 免許ヲ得シテ代書代言ニ類スル所業ヲナス者

三 丙種

一 監視ノ刑及ヒ處刑放免後ノ者

一 不審ト思料スル者

一 無産無職其他惡評アル者

第四條 甲種ハ毎年一回乙種ハ每六ヶ月一回丙種ハ毎月一回以上調査スヘシ

但戸口調査ノ日ハ署所長ニ於テ之ヲ定ムルモノトス

第五條 戸口調査ヲ爲シタルキハ署所長ニ届出テ調査簿

ノ点檢ヲ受クヘシ

第六條 巡查擔當部内ノ住民ニ不審ノ舉動アリト認シタルキハ直ニ署長ヘ其旨ヲ具申スヘシ若シ事急遽ニ涉ル

キハ便宜ノ取計ヲナシ置キ其指揮ヲ受クヘシ

第七條 丙種ノ者他ノ所轄内ヘ移轉シタル時ハ直ニ署長ニ届出ツヘシ署長ハ直ニ其移轉シタル所轄ノ署長ヘ通

知スヘシ

第八條 所轄内ヘ不審ノ者移轉シタル通知ヲ受ケタルキハ擔當巡查ヲシテ專ラ其舉動ニ注意セシムヘシ

第九條 署長ハ戸口調査簿ヲ製シ擔當巡查ニ交付スヘシ
之ヲ受ケタル巡查ハ記載例ニ依リ記スヘシ

第十條 左ニ記載例ヲ示ス

戸口調査簿記載例

- 第一項 戸口調査ニハ本住ト寄留若クハ寓居トナ區別
シ其住所ノ町村名番屋敷借家等ノ譯及ヒ一家人ノ族
籍身分職業年齢ヲ記載スヘシ
- 第二項 一家内ニ寄留寓居スル者及ヒ雇人ハ其戸主ノ
末籍ニ記載シ朱ヲ以テ寄留寓居同居附籍及ヒ雇人別
ニ肩書スヘシ
- 第三項 年齢ハ何年何月生ト記載スヘシ
- 第四項 官吏准官吏神官僧侶教員醫師代言人ノ如キハ
其官名職名ヲ記載スヘシ
- 第五項 甲町村ニ本籍アリテ乙町村ニ寓居スル者ハ乙

町村ヲ以テ本籍ト看做スヘシ

第六項 資産舉動等ノ如何ヲ區別スルニハ適宜一定ノ

符合ヲ設ケ置クヘシ

第七項 左ニ戸口調査簿ノ雛形ヲ出ス

戸口調査用紙半紙界紙一戸一枚ニ認メ家族
多クハ數枚ヲ用ユルモ妨ケナシ

何郡何町村何番屋敷(借家)屋號

(丙)士族(平民)本住職業
寄留

戸主 何 之 誰

何年何月生

實父(養父)何 之 誰

何年何月生

妻 何 之 誰

何年何月生

教員(代言人) 弟 何 之 誰

何年何月生

長男 何之誰

何年何月生

同居(附籍)

士族(平民)職業 何之誰

何年何月生

雇男(女)

何國何郡何之誰男女弟姉妹 同

、、、、

(寄留寓居人ナレハ左ノ如シ)

寄留(寓居)

本籍何府縣國郡町村士族平民

職業 何之誰

何年何月生

妻 何之誰

、、、、

第十一條 戸口調査ヲ爲スハ左ノ主意ヲ服膺スヘシ

第一項 戸口調査ハ行政警察規則第三章第五條ニ基キ

タルモノニテ其要旨ハ惡人ヲシテ潜伏スルヲ得サラ

シメ良民ヲシテ業ニ安セシムルニ在リ故ニ戸籍調ト

主意ヲ混同シ且ツ簿冊ノ整理ニノミ偏スルコトアル可

カラズ務メテ毎戸人々ノ舉動良否ヲ知悉ズルヲ要ス

第二項 戸口調査スルニ方リテハ行政警察規則第四章

第一條第八條ヲ恪守スヘシ

第三項 第三條ニ定メタル丙種ノ者ハ當人ノ覺知セサ

ル様暗々裏ニ其舉動ヲ探リ且ツ常ニ隣保ノ風評ニ注

意スヘシ

第四項 第三條ニ定メタル乙種ノ者ハ不斷精密ニ注意スルヲ要ス

第五項 擔當區内ニ著シキ犯罪者ノ潜伏及ヒ容易ナラサル舉動アル者ヲ覺知セス他ヨリ發覺スルキハ事情ニヨリ各其責ニ任スルヲアルヘシ

第六項 戶口調査ハ甲乙丙ノ三種ニ分ツト雖凡士族ニ

至テハ特ニ別簿ヲ製スルカ又ハ○印ヲ施シ置キ其職業及ヒ資産ノ景況ヨリ平素ノ舉動ニ至ルマテ務メテ注意スヘシ

○警衛及警備

○警告達第三拾四號 明治十六年三月十三日

警察署

皇族大臣參議諸省卿方本縣管内通行之節警衛之義左之通相定候條此旨告達候事

一左之區別ニ因リ警衛スヘシ

皇族

警部警部補ノ内

巡查

大臣

參議

卿

巡查

一急行等ニテ所轄境ニテ交代致シ難キ場合ハ便宜ノ地ニ於テ交代スヘシ

一非常ノ警衛有之定員ヲ増加スルカ又ハ辭退ニ依リ警衛ヲ要セサル等ノコアラハ速ニ報告スヘシ

壹名

壹名

貳名

明治十六年警規第一號ヲ以テ増補

一宿泊所へハ巡查壹名差出シ警衛スヘシ

○明治十六號警規第十五號達(本文雜部門ニアリ)

第二十二項 勅使參向ノ節内規ノ義ニ付左之通被相達候條此旨相心得ヘシ

内務省番外達

十二年十一月十二日

東京警視本署

府縣 東京府ヲ除ク

勅使參向ノ節内視別紙ノ通ニ候條自今宮内省ヨリ通報次第警備方可取計此旨相達候事

正式勅使參向内規

第一條 此内規ノ管スル期限ハ詔書祭文ヲ受ケ 皇居ヲ出ツルヨリ復命迄ノ時間又各地方ニ於テハ其當日旅館ヲ出ツルヨリ旅館ニ歸ル迄ノ時間トス

第二條 勅使并ニ隨員大禮服ヲ着用ス

第三條 詔書祭文ハ錦ノ袋ニ納メ隨員首ニ掛ク若シ隨員ナケレバ勅使自ラ之ヲ捧持スル等ハ總テ時宜ニ依ル

第四條 下乗ハ皇族下乗所ニ於テス

第五條 乗用ハ馬車又ハ騎馬タルヘシ

第六條 警備トシテ警部四騎ヲ付スニ騎前ニアリ二騎后ニアリ

第七條 途上常備ノ巡查ヲシテ一層注意セシム

○明治十六年警規第十五號達(本文雜部門ニアリ)

第三拾三項 現金遞送ノ節護衛方ノ義ニ付左之通被相達候條爲換方ヨリ申立次第巡查壹名派出護衛方不都合無之様取計フヘシ

但該署ニ於テハ沿道警察署分署へ遞送狀ヲ發付スヘシ

〔參看〕

乙第四拾四號

府 縣

國稅領収順序ニ據リ各地大藏省爲換方へ預リタル税金
遞送ノ節巡查護衛ノ義ニ付十二年乙第拾九號ヲ以テ相
達候趣モ有之候處來ル十四年一月已後大藏省爲換方ニ
於テ現金遞送致候條爲換方ヨリ申立次第途中又ハ宿泊
中巡查ヲシテ護衛セシメ都テ不都合無之様可取計此旨
相達候事

但護衛人員ノ義其應ノ適宜ニ任候事

明治十三年十二月二十二日 內務卿 松方正義

大藏卿 佐野常民

○警達第三號 明治十六年一月二十九日

應内警衛員

應内警衛員職務心得別紙之通相定メ候條此旨相達候事
應内警衛員職務心得

明治十六年警規第三號ヲ以テ改正

第一條 警衛員取締ハ警衛員一切ノ取締ヲ爲スヘシ

第二條 警衛員ハ警察本部ノ指揮ヲ受ケ總テ此心得書ニ

隨ヒ應内一切ノ警衛ヲ爲スモノトス

第三條 門衛所ニハ警衛員一名一晝夜詰切り開門中見張

ヲ爲スヘシ其閉門後ト雖モ出入者アルトキハ之ヲ監視
スヘシ

第四條 金庫見張所ニハ日没前ニ二名出勤シテ日没ヨリ

日出迄ノ間詰切り金庫ヲ警備シ尙一名ツ、一時毎ニ一
回構内ヲ巡視ノ火ノ元ハ勿論賊難等ヲ嚴ニ注意スヘシ

第五條 門衛所金庫見張所ニハ各當直簿ヲ備置キ當直者

ノ姓名月日ヲ記シ其他事故アルキハ其顛末ヲ登記シ翌
朝警察本部警部ノ檢閱ヲ受ケ以テ后日ノ証トスヘシ

第六條 警衛員ハ表裏ノ二開閉ヲ掌リ裏門ハ警察本部ノ

通達アルニアラサレハ開閉スヘカラス表門開閉ハ左ノ

例ニ依ルベシ

開 大門 日出 但休日ハ大門ヲ開カズ

開 小門 日出 午後九時

閉 大門

第七條 警衛員ニ於テ廳門ヲ出入スル者其攜帶品怪シキ

ト認ムルキハ穩ニ之ヲ聞取リ尙ホ疑ハシキモノハ警察本部ニ申告シテ指揮ヲ受クヘシ

第八條 構内ニ於テ若シ賊難出火其他異常ノ事アルハ當

直警衛員ハ決テ其場ヲ離ルヘカラズ尤モ日没後ハ金庫見張所ノ一名ハ直ニ現場ニ駆付ケ消防等ノ事ニ從事スヘシ

但本文ノ事件アルキハ非直ノ者ト雖モ直ニ警察本部ニ駆付ケ指揮ヲ受クヘシ

○明治十六年務規第十五號達(本文雜部門ニアリ)

第三拾七項 國庫金取扱所ヲ左ノ個所ニ設置シ諸叔納

金取扱候ニ付平常巡查ヲ以テ護衛可爲致旨被相達候條該所々轄ノ警察署ハ實際配置方ノ義ハ該所ニ協議ノ上不都合無之様致スヘシ

一 津 三井銀行出店

一 山田 第百五國立銀行出店

一 四日市 三井銀行出店

一 木ノ本浦 第百五國立銀行出店

一 尾鷲浦 第八十三國立銀行

一 伊賀國上野 三井銀行出店

○警第四十號 明治十八年三月九日

津警察署

自今縣會議場警備員ノ義警部警部補ノ内壹名巡查壹名ト相定メ候條此旨相達候事

但開會ノ期日ハ其都度可相達候尤モ現今開場中ノ臨時

會ニ引續キ十八年度通常會ヲ相關キ候義ハ本月警第三十號達ノ通心得ヘシ

○號 外 明治十八年九月廿八日

警察署

曩日本縣下津國庫金取扱所龜山出張所強盜押入金員掠奪候ニ付テハ其他ノ出張所ニ於テモ危險不勘候條豫テ注意方ニ付達シタル義モ有之處尙一層各出張場トモ納期ノ節該地ノ警察署若クハ分署ニ於テ巡查チシテ嚴密ニ注意セシムヘシ
右相達候事

○無 號 明治十八年十一月十四日

警察署

租稅納期ノ際ニハ國庫金取扱出張所ニモ一層注意シ盜難豫防スル旨本年九月廿九日號外チ以テ達ノ次第モ有之候

(別表)

租稅徵收期限表

| 期限 | 種別 | 備考 |
|-------|------------------|---|
| 四月三十日 | 酒造稅第一期 | 前年十月一日ヨリ其年二月中檢査濟石數ニ係稅額ノ半數 |
| 五月三十日 | 醬油稅第一期 | 一月一日ヨリ四月中檢査濟石數ニ係稅額 |
| 七月卅一日 | 酒造稅第二期 | 三月一日ヨリ六月中檢査濟石數ニ係稅額ノ半數 |
| 八月卅一日 | 地租第一期 菓子稅第一期 | 地租ハ畑宅地山林原野牧場五分 菓子稅ハ一月一日ヨリ六月三十日マテニ係製造稅 |
| 九月三十日 | 酒造稅第三期 醬油稅第二期 | 酒造稅ハ七月一日ヨリ皆造期九月三十日マテ檢査濟石數ニ係稅額 并前納額ノ殘數 醬油稅ハ五月一日ヨリ八月中檢査濟石數ニ係稅額 |
| 十月卅一日 | 地租第二期 | 畑宅地山林原野牧場五分 |

官制門

警衛及警備

| | | |
|----------|--------|----------------------|
| 十二月十五日 | 同 第三期 | 田方二分五厘 |
| 翌年 一月廿五日 | 同 第四期 | 田方二分五厘 |
| 同 一月卅一日 | 醬造稅第三期 | 九月一日ヨリ十二月中檢査濟石數ニ係ル稅額 |
| 同 二月廿八日 | 菓子稅第二期 | 七月一日ヨリ十二月卅一日マテニ係ル製造稅 |
| 同 三月卅一日 | 同 第五期 | 田方二分五厘 |
| 同 四月二十日 | 同 第六期 | 田方二分五厘 |

地租金ハ何日ヨリ何日迄ト納期ヲ設ケテレタルモノ實際戶長役場ニ現金ノ多額ヲ取扱ヘハ期限前十日以内位ナルヘシ但本表ハ其限リノミヲ掲載ス

○警規第二十四號 明治十九年四月二十六日
 警察署
 分署
 大藏省現金支拂所ヨリ公債証書元利支拂ノ爲メ各郡役所
 ～現金携帶出張ノ際保護ヲ受度旨該所ヨリ請求アリタル
 時ハ明治十六年警規第十五號達第三十三項國稅金保護ノ

手續ニ準シ取扱フヘシ
 右相達候事

○警規第一號 明治二十年一月十日
 警察署

國庫金取扱所ノ出張場ニテ諸稅納期ニ際シ金員領収ノ節
 盜難等ノ恐レ有之一時保護ニ困難ヲ極メ候場合ニ於テ該
 出場所ヨリ最寄警察分署若クハ駐在巡査ヘ取締方依頼シ
 タル時ハ便宜巡査ヲシテ特ニ注意ヲ加ヘ保護セシムヘシ

●安寧門

◎集會

○甲第五十四號 明治十三年四月廿三日

本年太政官第十二號布告ヲ以テ集會條例被定候ニ付右集會ノ屆書ハ開會三日前日曜日大祭日等ハ算入セス午前第十時迄ニ所轄警察署へ差出ヘシ此旨布達候事

但明治十一年十二月天甲第百七十四號布達取消候事

○乙第十號 明治十五年一月二十日

學務委員

從來學校等ヲ仮用シテ諸般ノ集會ヲ舉行スル向モ有之候處其行爲ノ遊興弄戲ニ屬スルモノ并ニ言論ノ猥褻詭激ニ涉ルモノハ教育上妨害少ナカラサル儀ニ付文ハ省ヨリ達ノ趣有之候條自今學校等ヲ右ニ充用セシメサルハ勿論行爲言論ノ遊興弄戲猥褻詭激ニ涉ラサルモノト雖モ總テ公

衆ノ集會ヲ要スル節ハ其事由ヲ詳記シ前以テ郡役所ニ可
届出此旨相達候事

○甲第五十二號 明治十五年三月二日

政治ニ關セサル事項ト雖モ講談論議スル爲メ公衆ヲ集ム
ル者ハ開會前日迄ニ其事項并ニ講談論議スル人ノ姓名及
ヒ場所年月日等ヲ詳記シ會主ヨリ所轄警察署ニ届出スヘ
シ此旨布達候事

但警察署ヨリ警察官吏其會場ニ監臨スルコトアルヘシ

○警告達第四拾六號 明治十六年三月廿三日

警 察 署

本年司法省第一〇四八號達監臨官調書體ノ儀ニ付別紙之
通司法卿ヘ伺相成候處朱書之通指令相成候條爲心得此段
及告達候也

演說監臨調書體之儀ニ付伺

本年二月第一〇四八號ヲ以テ演說監臨官吏ノ調書體御達
相成右ハ警察署長ニアラザル者ノ書體ニ候處當縣ニ於テ
ハ署長壹名ノケ所往々有之且又演說監臨ハ可成署長ニ於
テ之ヲ務メ候様豫テ相達置候ニ付署長ニ於テ監臨シタル
時ニ調書等ヲ作爲スルニ當テハ右御達ニ依リ難シ又御達
中調書體第三項及訊問調書式第八行目ニ解散ヲ命シ云々
ト有之候得共學術會等ニシテ政談ニ亘ルモ其治安ヲ妨害
スルト認ムルアラザレバ解散ヲ命セサルモノタルヲ以テ
其解散ヲ命セサル時ハ是又御達ニ依リ難シ其他檢事ニ送
附スルコトヲ命スル調書式等ノ如キモ檢事ノ職務ヲ代理ス
ル官吏ニ送附スル時ニ當テハ御達ノ如クスル能ハス右ハ
皆一例ヲ示サレタル儀ニ付必此レニ拘泥セス御達ニ倣ヒ
便宜作爲スヘキ儀トハ存候得共爲念相伺候尤モ差懸リノ
件有之候ニ付電報ヲ以テ御指令被下度候也

(指令電信)

明治十六年三月二十二日

去ル十六日何演說監臨調書ノ儀ハ見込ノ通

○警規第四拾七號 明治十八年九月十日

警察署

當期警察官同盟會ニ於テ議決ノ件々知事ノ裁決ヲ徑テ左ノ如ク之ヲ定ム

第壹 (營業ノ部ニ掲載セリ)

第貳 政談演舌會開届出ノ事項ヲ認可セサルキハ其事

由演者ノ住所氏名等ヲ直ニ近縣接壤警察署互

報スルコト

但本文ノ手續ヲナスハ其演者ニシテ接壤警察

署ヘ赴クノ摸樣アルキニ限ル

右相達候事

◎出版及新聞

天甲第四號 明治十二年一月廿二日

我カ有版權ノ圖書ニシテ外國人ノ翻刻ニ係ルモノハ内國人民ニ於テ販賣不相成勿論ノ事ニ候得共尙心得違ノ者無之様兼テ其旨相諭世可申旨内務省ヨリ被相達候條此旨布達候事

○乙第五拾七號 明治十三年四月十五日

郡役所

戶長役場

菊御紋章ヲ賣物等ニ畫キ候義並紛敷品相用候義モ不相成旨明治九年三月二十八日明治四年六月十七日太政官布告ノ趣モ有之候處近來往々賣品ニ御紋章ヲ畫キ候向キ有之哉ニ付取締方一層注意可致旨今般宮内郷ヨリ被達候條心得違無之様厚ク注意可致此旨相達候事

○甲第百六十八號 明治十五年十月二十八日

神社寺院ノ守札ト可認モノ及神佛號ヲ記載セル畫像ハ其社寺院ノ外出板不相成旨其筋ヨリ被達候條此旨布達候事

○明治十六年警規第十五號達(本文ハ雜部門ニ在リ)

第三拾四項 郡役所へ左之通相達候條其署ニ於テモ取締方致スヘシ

近來錦畫團扇等へ 聖上兩皇后宮御像ヲ畫キ尊號ヲ記載シ猥ニ賣買候者有之哉ニ相聞へ不都合ノ次第ニ付自今屹度取締可相付旨宮内郷ヨリ内達有之候條右賣買不相成旨相達可申候事

○警規第貳號 明治十六年五月二十三日

上局 錄事

各 課

監獄本署

本年四月第拾貳號ヲ以テ新聞紙條例改正布告相成候ニ就テハ其第三拾壹條ニ依リ公文等ノ掲載ヲ許可シタルハ其事由ヲ具シ公文等相添へ直チニ警察本部ニ通知スヘシ此旨相達候事

○甲第拾三號 明治十九年二月六日

新聞紙雜誌雜報ノ類トモノ發賣所又ハ發賣人ヨリ之カ受賣ヲ爲サントスル者ハ遅クモ發賣ヲ始ムル二日前ニ其受賣所及受賣人氏名住所ヲ記シタル届書ニ通テ作リ所屬警察署又ハ分署ヲ經テ縣廳ニ届出ヘシ其受賣ヲ止メ又ハ改氏名其他前キノ届書ニ異動ヲ生スルキ亦同様ノ手續ヲ以テ其時々届出ヘシ

但既ニ受賣致居候者ハ早々本文ノ届ヲナスヘシ

右布達候事

○警規第拾四號 明治十九年三月八日

明治十七年甲第百三號ヲ以テ改正

明治十七年甲第百三號ヲ以テ改正

第二條 所有ノ銃ハ獵銃即チ和銃四目八分以下ノ小筒并西洋獵銃ニ限ル

第三條 發放ノ節ハ必ズ鑑札ヲ携帯シ巡查等ヨリ取調フルコアラバ差出シ示ス可シ

第四條 發砲期ハ空發ハ其年一月一日ヨリ十二月三十一日マテヲ以テ一期トシ實彈發射ハ二十日以内ヲ以テ一期トス

但期限内タリヒ田畑立毛取收候歟又ハ鳥獸ノ害除去候節ハ速ニ休止致ス可シ

第五條 保護銃ノ儀ハ專ラ空發ヲ用ユ若シ山間ノ村落等空發ニテハ實際行届キ難キ分ハ被害ノ鳥獸名ヲ明記シ其景況ヲ具シ伺出セシ詮議ノ上實彈射殺スルヲ差許スコアルヘシ

第六條 實彈ハ日出ヨリ日沒迄タルベシ夜間ノ防禦ハ空

發タル可キ事

第七條 實彈差許候トモ遊獵職獵ニ紛敷所業決シテ不相成候事

第八條 發放者ハ銃砲取扱ニ熟達シ自他ニ危害ナキ者ニ限リ候義ニテ年齢十六歳未滿ノ者瘋癲白痴并ニ山林田野川澤ノ監守者故ナク弓箭銃砲ヲ發ツノ刑ヲ受ケシ者等ハ不相成候事

第九條 實彈ハ勿論空發ト雖モ人家稠密ノ地及人家船舶又ハ居人ヲ距ル五十間已内ノ場所及ヒ禁獵製札アル場所社寺人家構内等ニ於テハ不相成候事

第十條 無鑑札ニテ發砲セシモノハ空發實彈發射ヲ問ハズ違警罪ヲ以テ罰セラルヘシ

第十一條 願書式
村内共同シテ保護銃免許ヲ願フト

明治十七年甲第百三號ヲ以テ改正

明治十四年甲第百二十五號ヲ以テ改正

安寧門

銃砲彈藥及刀劍

保護銃御願

郡名村名

何ノ誰

何年何ヶ月

何ノ誰

何年何ヶ月

何ノ誰

何年何ヶ月

當村耕地ノ義ハ(又ハ河海面ノ義ハ)從來ノ慣行ニテ税金上納使用致居候處前書幾名ノ者相撰何月何日ヨリ何月何日迄一期間空發ヲ以テ逐除實爲致度尤御規則之義ハ堅ク爲相守可申候條御免許鑑札御下渡被下度此段奉願候以上

右村總代

年月日

何ノ誰

明治十四年甲第二十五號ヲ以テ改正

何ノ誰

長官宛

與書如式

各自ニテ保護銃免許ヲ願フ

保護銃御願

一和銃玉目何匁

私所有之耕地又ハ何々河海面ノ義ハ從來ノ慣行ニテ税金上納使用致居候處何月何日ヨリ何月何日迄一期間(空發ヲ以テ逐除實彈ヲ以テ射殺仕度尤御規則ノ義ハ堅ク相守可申候條御免許御鑑札御下渡被成下度此段奉願候以上

郡名村名

何ノ誰

何年何月

証人何ノ誰

明治十四年甲第二十五號ヲ以テ改正

安寧門

射砲彈藥及刀劍

空發ハ証人ヲ要セズ

長官宛

與書如式

○甲第五十二號 明治十四年四月八日

管内ニ於テ自今刀劍賣買亦ハ讓受ケ等致シ候者ハ其都度
双方ヨリ住所姓名并ニ刀ノ大小員數月日何所ノ誰エ賣渡
何所ノ誰ヨリ買入等ヲ詳記シ原籍戸長ヲ經由シテ所轄警
察署へ可届出此旨布達候事

但本縣ノ者其他府縣ニ於テ買入又ハ讓受ケ候節ハ歸縣
ノ上本文同様ノ手續ニテ届出ヘシ

附

甲第七號 明治十八年十二月廿三日(本文ハ營業ノ部ニ在リ)

刀劍賣買等ニ係ル件 明治十四年甲第五十二號布達

右ノ届ハ分署部内ノモノハ該署ニ之ヲ爲スヘシ

○甲第七十九號 明治十四年十月廿二日

銃砲賣買免許商人ヨリ新製等ニ係ル無號ノ軍用銃買受ケ
シキハ番號彫刻方可願出此旨布達候事

附甲第七號 明治十八年十二月廿三日(本文ハ營業ノ部ニ在リ)

一銃砲賣買等ノ節願届手續 明治十四年甲第七十九號布達

ニ係ル願届ハ警察署ニ於テ取扱ヘキヲ以テ從來縣廳ニ

差出セシ願届等ハ所屬警察署ニ差出スヘシ該手續第一

條第四條第七條ノ場合ニ於テ移住地若シハ賣買讓受渡

人ノ住地甲乙兩警察署部内ニ係ルキハ双方ノ警察署ニ

届出ツヘシ

○甲第八十五號 明治十五年十二月十二日

銃砲所有ノ者ハ銃砲取締規則同シテ違犯者處分方等ノ成
規ヲ遵守スヘキハ勿論ナリト雖尙心得方左ノ通相定候條
此旨布達候事

但從前布達指令等此布達ニ抵觸スルモノハ取消ス

第一條 銃砲所持ノ者他府縣他府縣ヨリ移住又ハ管内他町村へ移住シ若クハ代替リ改姓名等ノキハ其旨届出ツ

第二條 軍用銃ヲ銃砲賣買免許商人ヨリ買受ントスルキハ改番號及ヒ銃名ヲ詳記シタル願書但副本ヲ出シ免

手形ヲ受ケ之ヲ證トシテ銃砲ト交換買受クヘシ若シ所持ノ軍用銃ヲ免許商人へ賣却セントスルキハ免許商人ニ於テ免手方ヲ受ケ之ヲ証トシテ授受スヘシ

第三條 免許商人ニ非サル者ヨリ軍用銃ヲ讓受又ハ讓渡ニサントスルキハ前條ノ手續ヲ經テ免手形ヲ証トシ授受スヘシ

第四條 軍用銃賣却又ハ讓渡シテ爲シタルキハ賣主讓主ヨリ三十日以内ニ免手形ヲ添ヘ其旨届出ツヘシ

第五條 軍用銃及ヒ獵銃凡免許商人ノ外賣買之義一切爲ス可ラス

第六條 軍用銃ヲ獵銃等ニ改造又ハ鑄潰シ或ハ燒爛腐蝕等ニテ廢銃ニ爲サントスルキハ檢査ノ上檢印削除致スヘクニ付事情ヲ具シ願出ツヘシ又獵銃ヲ廢銃ニ爲シタルキハ速カニ其旨届出ツヘシ

第七條 獵銃ヲ賣買又ハ讓渡讓受ヲ爲シタルキハ和洋銃ヲ區別シ和銃ハ玉目洋銃ハ口經ヲ記載シ双方連署ノ上速カニ届出ツヘシ

附甲第七號 明治十八年十二月廿三日

(本文ハ十四年甲第七十九號ニ附記セリ)

○明治十六年警甲第一號達 (本文ハ司法門ニ在リ)

第三十四節 火藥取締ニ係ル手續

第一條 火藥類ノ賣買營業願書ヲ差出シタルキハ本人ハ

明治十八年警甲第八號ヲ以テ追加

●安寧門

銃砲彈藥及刀劍

勿論身元引受人ノ身上ヲ探偵シ且ツ營業場ノ家屋倉庫
ヲ臨檢シタル上署長ニ於テ適不適ノ意見書ヲ添ヘ進達
スルモノトス

但分署長ニ於テ本文ノ願書ヲ受ケタルキハ臨檢ノ上
其適不適ノ意見書ヲ作り警察署長ニ差出スヘシ

第二條 烟火製造ヲ願出タルキハ其製造スヘキ場所ニ就
キ火藥取締規則以下單ニ規則ト書ス第二十一條ニ抵觸
セサルヤ否ヤヲ按檢シ然ル上許可証ヲ授與スルモノト
ス

第三條 烟火製造免許証授與ノ臺帳ヲ製置シ免許人ノ族
籍現住所姓名及製造所所在地ノ國郡町村名番地並ニ免
許証下付ノ番號年月日ヲ記載シ免許証ト押符ノ上下付
スルモノトス
其製造一時ニ止マリ營業トナサハルキハ其旨ヲモ記載

シ製造終リタラハ直ニ免許証ヲ上納セシムルモノトス
第四條 烟火製造廢業人ハ一時ノ製造ニ止マリ免許証ヲ
返納セシキハ臺帳ト免許証ノ押符ヲ消印シ臺帳ニ返納
セシ年月日ヲ朱記シ署長檢印ノ上免許証ヲ破棄スルモ
ノトス

第五條 銃砲用坑業土功用及職業用ニ供スル火藥類買入
ノ許可証授與ノ臺帳ヲ製置シ右買入ヲ願出テタルトキ
ハ左ノ事項ヲ記載シ許可証ト押符ノ上下付スルモノト
ス

- 一 買主賣主ノ族籍現住所姓名
- 一 火藥ノ種類坑業土功用職業用ニ供スル
- 一 許可証下付ノ番號年月日

第六條 火藥類運搬許可証授與ノ臺帳ヲ製置シ右運搬ヲ
願出テタルキハ左ノ事項ヲ記載シ許可証ト押符ノ上下

付スルモノトス

一 運搬主ノ族籍現住所姓名

一 火藥ノ種類量目

一 出荷着荷ノ地名並ニ經路ノ概略水陸運ノ別

一 運搬ノ年月日

一 許可証下付ノ番號年月日

第七條 規則第七條第十二條ニ依リ營業人ヨリ火藥類賣

買ノ届書ヲ差出シタルキハ左ノ雛形ニ倣ヒ毎月毎年ノ

賣買高ヲ統計シ月計ノ分ハ翌月二十日年計ノ分ハ翌年

一月十五日ヲ限リ進達スルモノトス

免許商某買受火藥類月年計表

| | | | | | |
|-------|---------|---|------|----|-------|
| 火藥 | 陸軍省海軍省人 | 民 | 前月ヨリ | 合計 | 計賣拂殘餘 |
| | | | 越高 | | |
| ダイナマイ | | | | | |

同賣拂月(年)計表

| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|-----|----|----|----|----|----|----|----|-------|-----|----|----|----|----|----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|----|
| 導火管 | 雷管 | 何々 | 何々 | 何々 | 何々 | 何々 | 火藥 | ダイナマイ | 導火管 | 雷管 | 何々 | 何々 | 何々 | 何々 | 烟火用 | 獵銃用 | 軍銃用 | 船舶大 | 坑業用 | 土功用 | 職業用 | 合計 |
| | | | | | | | | | | | | | | | 砲用 | | | | | | | |

安寧門

銃砲彈藥及刀劍

明治十八年乙第百八十九號ヲ以テ追加

第八條 火藥類賣買營業者ノ家宅倉庫及火藥庫又ハ烟火製造所ニハ毎月一回以上臨檢シ火藥貯藏ノ安否量目其他規則ニ違背ノ虞ナキカヲ取調其景況ヲ報告スヘシ

○明治十六年警甲第一號達(本文ハ司法門ニ在リ)

第三十五節 銃砲賣買等ニ係ル願届區處

第一條 警察署ニ於テハ左ノ帳簿ヲ製シ以下各條ニ從ヒ

簿記スヘシ

第一號

軍用銃買入免券渡帳 (用紙美濃野紙)

明治何年何月何日起同何年何月何日止

○

何年何月何日

第何號

第何千何百何十何番

何國何郡何町村

エソヘール

何挺

何之誰渡

和銃玉目七匁何挺

右ハ何府縣國郡町村何誰ヨリ讓受又ハ何府縣國郡町村銃砲賣買免許商何ノ誰ヨリ買受シ

記載例

明治何年何月何日トアルハ免券渡日第何號トアルハ免券ノ番號第何千何百何十何番トアルハ銃砲ニ彫刻ノ改メ番號記載スルモノトス割印ハ下付スヘキ免券ト押符シ消印ハ免券返納ノ時押捺スルモノトス

第二號

獵銃製造免許狀渡帳 (用紙前ニ同シ)

明治何年何月何日起同何年何月何日止

第何號

何國郡何町村

一獵銃製造免許狀

何之誰渡

右明治何年何月何日下渡

記載例

第何號トアルハ免許狀ノ番號ヲ記載ス
制印ハ下付スヘキ免許狀ト押符ス

第三號

軍用銃臺帳 (用紙前ニ同シ)

明治何年何月何日起同何年何月何日止

| | | | | |
|------|----|---------------------------|-----|----|
| 銃名 | 番號 | 買讓受渡事由 | 町村名 | 姓名 |
| スヒトル | 何番 | 何年何月何日 何府縣免許商 誰ヨリ買ハ | 何々 | 何々 |

記載例

番號欄ニハ銃砲改メ番號買讓受渡事由ノ欄ニハ賣買讓受渡ノ年月日事由町村名ノ欄ニハ其住所姓名ヲ記載スベシ

消印ハ他へ讓渡賣渡シタルキ又ハ廢銃トナリタルキ押

| | | | | |
|------------|----|---------------------------|--------------------------|----------------|
| 和銃玉目 十匁 | 何番 | 何年月日何府 縣國郡町村何 誰ヨリ讓受 | 何年月日何府 縣國郡町村何 誰へ讓渡 | 何年月日破損 ニ付廢銃 |
| スナイドル | 何番 | 、、、、、 | 、、、、、 | 、、 |
| エソペール | 何番 | 、、、、、 | 、、、、、 | 、、 |
| 、、、、、 | | 、、、、、 | 、、、、、 | 、、 |

捺スルモノトス
 本帳ハ郡別ニ製スヘシ又銃砲賣買免許商アル地ノ警察署ハ其帳簿ヲ別ニ製スルカ又ハ一帳ニ製シ其見出ヲ付スル等便宜取扱ヘシ

第四號

獵銃臺帳 (用紙前ニ同シ)

明治何年何月何日起同何年何月何日止

| 銃名 | 賣買讓受渡事由 | 町村名 | 姓 | 名 |
|----------|--------------|-----|---|---|
| 洋獵銃 口經何分 | 何年月日何府縣國ヨリ讓受 | 何々何 | 何 | 々 |
| 洋獵銃 口經何分 | 何年月日何府縣國ヨリ讓受 | 何々何 | 何 | 々 |
| 和獵銃 玉目何分 | 何年月日何府縣國ヨリ讓受 | 何々何 | 何 | 々 |

| 和獵銃 玉目何分 | 何年月日何府縣國ヨリ讓受 | 何年月日何府縣國ヨリ讓渡 | 何年月日何府縣國ヨリ讓受 |
|----------|--------------|--------------|--------------|
| 、 | 、 | 、 | 、 |
| 、 | 、 | 、 | 、 |
| 、 | 、 | 、 | 、 |
| 、 | 、 | 、 | 、 |
| 、 | 、 | 、 | 、 |

記載例

洋獵銃ニハ口經和獵銃ニハ玉目ヲ記載ス其他製帳及記載方トモ第三號帳ト同シ

第五號

銃砲明細書 (用紙適宜)

明治何年何月何日起同何年何月何日止

銃砲賣買免許商 何ノ誰

| 年 | 軍用銃前月ヨリ | 買入 | 渡廢 | 銃月末在高 |
|-------|---------|----|----|-------|
| 明治十八年 | 和越 | 三 | 一 | 一 |

| | | | | | | | | | |
|--------|----|-------|----|----|----|-----|----|----|----|
| 年 月 | | 明治十八年 | | 一月 | | 同 月 | | 二月 | |
| 獵銃前年ヨリ | 和越 | 洋越 | 和越 | 洋越 | 和越 | 洋越 | 和越 | 洋越 | 和越 |
| 製造買渡廢銃 | 三 | 二 | 三 | 二 | 八 | 三 | 八 | 三 | 八 |
| 月末在 | 高 | 一 | 三 | 二 | 五 | 二 | 三 | 二 | 五 |

○ 獵銃製造免許人 何ノ誰

| | |
|----|----|
| 洋越 | 三三 |
| 和越 | 二 |
| 洋越 | 二 |
| 和越 | 二 |
| 洋越 | 一 |
| 和越 | 一 |
| 洋越 | 三 |
| 和越 | 三 |

| | | | | | | | | | |
|-----------|----|-------|----|----|----|-----|----|----|----|
| 年 月 | | 明治十八年 | | 一月 | | 同 月 | | 二月 | |
| 獵銃前月ヨリ | 和越 | 洋越 | 和越 | 洋越 | 和越 | 洋越 | 和越 | 洋越 | 和越 |
| 仕立替買入賣渡廢銃 | 四九 | 三三 | 四九 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 |
| 月末在 | 高 | 三三 | 四九 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 |

○ 銃砲賣買免許商 何ノ誰

| | |
|----|----|
| 洋越 | 四五 |
| 和越 | 二 |
| 洋越 | 二 |
| 和越 | 二 |
| 洋越 | 一 |
| 和越 | 一 |
| 洋越 | 三 |
| 和越 | 三 |

一三番形ヒストール銃

一、一、一、

第二條 軍用銃ノ買受讓受ケ出願スルトキハ左ノ手續ヲナスヘシ

第一項 賣買讓受渡人トモ部内ノモノナレハ軍用銃臺帳ニ就キ賣讓渡人所持ノ銃名番號等ヲ調査シ相違ナキニ於テハ臺帳ニ式ノ如ク買受人讓受人ノ住所姓名年月日等ヲ記入シ銃名ノ上ニ消印シ然ル後買受人ノ住所姓名其他亦式ノ如ク記入スヘシ其賣買讓受渡人ノ内一方ノミ部内ノモノナレハ前段ノ如ク臺帳ヲ消印スルカ又ハ加名スルモノトス

第二項 前項ノ手續ヲ終レハ第一號帳ニ年月日免券番號等ヲ式ノ如ク記入シ然ル後免券ニ移記スヘシ

第三項 免券裏面物件數ノ下ニハ署長若クハ代理官認印シ然ル後第一號帳ト割印シ下渡ノ手續ヲナスヘシ
第四項 賣買讓受渡結了後免券ヲ返納スルトキハ之ト

第一號帳ト消印スヘシ
免券雛形 (用紙程村四ツ切)

| | | | |
|--|--------------------|---------|----|
| 面 | | 裏 | |
| 第何號 | 府縣國部何町村(免許商讓渡人何之誰) | 一 エンヘール | 壹挺 |
| 何府縣國部町村(賣渡人讓受人何之誰) | 何府縣國部町村(買受人) | 一 ピストル | 五挺 |
| 何府縣國部町村(買受人) | 何府縣國部町村(買受人) | 一 何々 | 、 |
| 裏面之銃砲讓受差許候條此証書ヲ以テ現品ト交換可致事 但交換ノ上ハ三十日內ニ讓主ヨリ此証書相添へ交換セシ旨届出ヘシ 年月日 三重縣 何警察署印 | | | |

第五項 他府縣人民ト軍用銃ノ賣買讓受渡ヲ願出免許券ヲ付シタルトキハ直ニ其以方ノ住所姓名銃名挺數等ヲ具シ其旨該府縣警察本部ニ通報スヘシ

第六項 新造ニシテ無番號ノ銃砲買入方願出ルキハ免許下付ノ際買取ノ上ハ番號彫刻願出ヘキ旨ヲ示達スヘシ

但番號ハ第一號ヨリ起ル署名ノ頭例例ヘハ松坂ハ松第一號字ヲ冠スヘシ

第三條 獵銃賣買讓受渡シタル旨双方連署届出ルキハ前條ニ準シ調査シ銃種口徑玉目其他式ノ如ク記入スヘシ
第四條 獵銃製造免許ヲ願出タルトキハ左ノ手續ヲナスヘシ

第一項 願人ノ身分職業平素ノ行狀爲人資産ノ有無製造ノ場所等ヲ調査シ許否ノ意見ヲ具ニ伺出指揮ヲ受

クヘシ

第二項 前項ノ指揮ヲ得タルトキハ左ノ通處置スヘシ
書面願之趣聽届免許狀下付候事
(但本文ノ旨分署へ届出スヘシ)

年月日

署長

雛形 (用紙西ノ内四ツ切)

免許狀

何國郡町村番屋敷

第何號 何ノ誰

獵銃製造免許候事

但製造銃砲賣買免許商外ニ販賣スルヲ得ス

三重縣

年月日

何警察署

書面願ノ趣聞届候事

年月日

署長

第三項 前項免許狀ヲ付シタルトハ左ノ書式ニ依リ每
翌月五日迄ニ届出ツヘキ旨示達スヘシ

書式 (用紙野半紙)

獵銃製造并ニ賣渡御届

明治何年月中獵銃製造並ニ賣渡別紙明細書ノ通相違無之
候此段御届申候也

何國郡町村

年月日

何之誰

署宛

(別紙)

明治何年月中獵銃製造並ニ賣渡明細書
何月中製造(或ハ越高)或ハ製造無之)

一西洋形獵銃

何挺

内

口經何分

何挺

、、、、

何挺

一和獵銃

内

玉目何匁

何挺

、、、、

何月中賣渡 (或ハ賣渡無之)

免許商何國郡町村

一何獵銃

口經何分

何挺

何之誰

一、、、

口經何分

何月中現在高

一何獵銃

口經何分

何挺

一、
右ノ通相違無之候也

製造人 何ノ 誰印

第六條 免許商ヨリ銃砲賣買届書製造人ヨリ製造並ニ賣渡届書ヲ差出シタルキハ免券渡帳及臺帳等ニ照合シ相違ナキニ於テハ主任認印シ其書類ヲ編輯スヘシ

第七條 警察署ハ左ノ表式ニ依リ毎年十二月末日現在ノ銃數ヲ調へ翌年一月二十日マデニ本部第二課ニ差出スヘシ

表式 (用紙半紙)

| | | | | |
|------------------|------------|----|------|---|
| 郡名 | 明治年月日現在高調書 | | 何警察署 | |
| | 軍 | 一般 | 民 | 免 |
| 和銃洋銃和銃洋銃和銃洋銃和銃洋銃 | 用 | 用 | 許 | 商 |
| | 用 | 用 | 用 | 人 |

○甲第百十七號 明治十七年十二月廿四日

明治十一年六月天甲第九十一號同年七月天甲第百十一號同十四年十二月甲第百五號同十五年二月甲第二十九號布達テ廢シ火藥使用願手續左之通相定候條此旨布達候事但從前ノ令達本文抵觸ノ分ハ總テ廢止トス

火藥使用願手續

第一條 土石堀割等ノ爲メニ火藥使用願

右願書ニハ左ノ事項ヲ詳記シ其場ノ略圖ヲ添ヘ尙國土保安等ニ關スル場所ニシテ別段ノ成規ニ依リ許可ヲ請フヘキモノハ其許可ノ指令書寫ヲ添フヘシ

一 使用ノ願意
二 場所 某所字何山 又ハ何々

明治十八年甲第八號ヲ以テ改正

三官有地私有地ノ別
 四人家并ニ道路ノ距離
 五使用ノ期限
 第二條 祭典祝儀開業式等ノ節烟火放揚願
 右願書ニハ前條ノ第二第三第四項及左ノ事目ヲ詳記ス
 ヘシ
 一放揚ノ趣意
 一放揚ノ日時
 第三條 前條々ノ願書ハ正副二通ヲ作り戸長ノ奥印ヲ受
 ケ所屬警察署(分署部内ハ該署ヲ經テ)ニ差出シ許可ヲ
 受クヘシ
 ○甲第四號 明治十八年一月十九日
 客歲十二月第三十一號ヲ以テ火藥取締規則公布相成候ニ
 付右ニ係ル願届手續及証書雛形等別紙ノ通相定メ候條此

旨布達候事

別紙

火藥取締規則ニ係ル願届手續及証書雛形
 第一條 管内ニ於テ火藥類ノ賣買營業ヲ許スノ地ハ左ノ
 三ヶ所ニ一名宛ト定ム
 伊勢國津 同山田 伊賀國上野
 第二條 火藥類ノ賣買營業ヲ爲ントスル者ハ營業ノ場所
 及ヒ其家屋倉庫ノ圖面ヲ添ヘ身元引受人二人以上連署
 シ戸長ノ奥印ヲ受ケ所轄警察署ヲ經テ本廳ニ願出ツヘ
 シ然ルルハ左ノ免許鑑札ヲ授與スヘシ

免許証
 何國何郡何(町村)何番地
 何之誰
 第何號

用紙鳥ノ子四ツ切

安寧門

銃砲彈藥及刀劍

何國何郡何(町村)何番地ニ於テ
火藥類賣買營業免許候事

年月日

三重縣(印)

第三條 烟火ヲ製造セントスル者ハ烟火ノ種類製造所ヲ
具シ且ツ製造所ノ圖面并ニ家屋若クハ火ヲ取扱フ場所
ニ至ル迄ノ距離ヲ記載シ戸長ノ奥印ヲ受ケ所轄警察署
(分署部内ナレハ該署ヲ經テ)ニ願出ツヘシ然ルキハ左ノ
免許証ヲ授與スヘシ

免許証

何國何郡(町村)何番地
何之誰

何國何郡何(町村)何番地ニ於テ烟火
製造免許候事
年月日 何警察署印

用紙鳥ノ子四ツ切

第四條 銃砲用ノ爲メ火藥類ヲ買受ケントスル者ハ其所
用ノ目的銃砲ノ種類ヲ具シ戸長ノ奥印ヲ受ケ所轄警察
署ニ願出ツヘシ然ルキハ左ノ許可証ヲ授與スヘ
シ
用紙程村四ツ切

許可証

何國何郡何(町村)何番地
何之誰

表
第何號
裏面ノ何々買受差許候條此
証ヲ以テ現品ト交換可致事
但交換ノ上ハ三十日內ニ
賣主ヨリ此証相添ヘ届出
ツヘシ
年月日 何警察署印

何銃砲用火藥

○檢印

裏 何銃砲用雷管

○同

面 導火管○

同

以上

第五條 坑業土功用ニ供スル爲火藥類ヲ買受ケントスル
 キハ其量目ヲ具シ明治十七年十二月本縣甲第百十七號
 第一條ノ許可証ヲ添へ所轄警察署ニ願出ヘク又職業用
 ニ供スル爲メ火藥類ヲ買受ケントスルキハ火藥取締規
 則以下單ニ規 第十條末項ノ事目ヲ具シ所轄警察署ニ願
 出ツヘク然ルキハ左ノ許可証ヲ授與スベシ

許可証
 何國何郡何町何番地
 何之誰

用紙程村四ツ切

表 割印

面

第百號
 裏面之何々買受差許候條此
 証ヲ以テ現品ト交換可致事
 但交換上ハ三十日內ニ
 賣主ヨリ此証相添届出ヘ
 シ

年月日 何警察署印

何々用

タイナマイト何貫目

○捺印

何々用

何貫目

以上

面

裏

第六條 規則第二十二條ニ依リ火藥類ヲ運搬セントスル
 キハ遲クトモ三日以前ニ所轄警察署ニ願出ツヘク然ル
 キハ左ノ許可証ヲ授與スベシ

用紙程村四ッ切

| | |
|--------------|-----------|
| 許可証 | 何國何郡何村何番地 |
| 一火藥 | 何貫目 |
| 一何々 | 何貫目 |
| 右何月何日何時何國何郡何 | |
| 町何番地ヨリ出荷何所々 | |
| 々陸路水路ヲ經テ何國何郡 | |
| 何番地へ運搬方申出候ニ | |
| 付許可候事 | |
| 年月日 | 何警察署印 |

第七條 規則第六條ヨリ日出前日没后ニ於テ火藥ヲ賣
買セントスルハ買主ヨリ又運搬荷造ヲナサントスル
キハ其荷主ヨリ事由ヲ詳具シ所轄警察署ノ認可ヲ受ク
ヘシ

第八條 規則第七條第十二條ニ依リ差出スヘキ届書ハ各
二通ヲ作り所轄警察署ニ差出スヘシ警察署ニ於テハ一

通ヲ留メ置キ一通ハ本廳ニ差出スヘシ

○警規第三拾八號 明治十八年七月六日

警察署

船舶用大砲小銃ノ彈藥買入レ願出ルキハ火藥取締規則ニ
係ル願届手續第四條ニ依リ證書表面氏名ノ上ニ汽船何々
號船長又ハ船主ト記シ書面ハ大砲火藥何發分何百目小銃
火藥何發分何百目云々ト火藥ノ實數量ヲ掲クヘシ此旨相
達候事

○警規第三十八號 明治二十年十二月二十日

山田 津野 警察署

火藥購求手續ノ儀ニ付テハ夫々規則モ有之候處官林除害
銃鑑札ヲ所持スルモノニ限リ其鑑札ヲ火藥賣買商ニ示シ
火藥購求スルヲ得ヘキ筈ニ付豫テ其地該商人へ通達シ置
クヘシ

◎發火物

○甲第七號 明治十八年一月廿六日
 烟火ヲ販賣セントスル者ハ其種質玩弄花火ハ其ヲ詳具シ且ツ貯藏所ノ圖面ヲ添ヘ戸長ノ與印ヲ受ケ所轄警察署分署部内ナレハ該署ヲ經テ願出其許可ヲ得ヘシ此旨布達候事
 但右布達ニ違背シタル者ハ違警罪ヲ以テ罰セラルヘシ
 尤モ明治十五年七月甲第百五十一號布達ハ自今廢止トス
 ○甲第拾六號 明治十八年三月五日
 摺附木製造ニ黃燐ヲ用ヒ候儀ニ付テハ其筋ヨリ達ノ次第モ有之候條爾今禁止候條此旨布達候事

◎變災

○甲第十號 明治十六年二月十日
 火災消防ノ規則ヲ編制スル町村ハ所轄警察署ニ届出認可ヲ受クヘシ又從來消防組ヲ設備スル町村ハ此際更ニ取調其認可ヲ受クヘシ且其消防ノ事ニ付テハ警察官吏ノ指揮ニ從フヘシ此旨布達候事
 但從前ノ令達本文抵觸ノ分ハ廢止トス
 ○警告達第二十四號 明治十六年二月二十日
 警察署
 今般甲第十號乙第二十五號ヲ以テ火災消防規則ノ儀ニ付相達候ニ付テハ實際ニ適當シ消防其方ヲ得ルヲ認定シタル上認可シ又其心得ヲ以テ戸長ハ協議シ其署員ノ之ニ應スル處務細目ヲ制定シ并ニ該書類一通ヲ具シ速ニ届出スヘシ此旨相達候事
 但本文抵觸ノ令達ハ自然消滅ス

○乙第二十五號 明治十六年二月十六日

郡役所

戸長役場

今般甲第十號ヲ以テ火災消防規則ハ警察署ノ認可ヲ受ク
ヘキ旨布達候ニ付テハ該規則ノ議按テ町村會若クハ數町
村聯合會ニ付シ又ハ之ヲ認可スル時ハ前以テ警察署長ト
協議ノ上處分可致此旨相達候事

但從前ノ令達本支抵觸ノ分ハ廢止トス

○明治十六年警甲第一號達

第十六節 火災ノ節 區處

第一條 各署部内火災ノ節ハ迅速巡查一名ヲシテ火元ヲ
見セシメ其旨歸署次第先其町村家名急速ヲ要スルニ付
町村名ノミニテモ苦シカ等ヲ門前ニ揭示シ鎮火ノ時ニ至リ燒失戸數及出
火鎮火ノ時間トモ併セ掲グヘシ

但津警察署ハ出火及ヒ鎮火ノ節トモ速ニ長次官及ヒ
警察本部長ニ急報スヘシ

第二條 近傍火災ノ時ハ火元見巡查ノ歸署スルヲ待タス
巡查ヲ卒ヒ當直所ニハ相應ノ人員ヲ殘シ置クヘシ速ニ
其場ニ臨ムヘシ

第三條 警部又ハ警部補出張ノ場ニハ第拾三條ニアル目
標畫ハ旗夜ハ提灯ヲ立テ其場ヲ以テ巡查消防夫ヲ指揮
スル本據トスヘシ

第四條 消防夫取付ケサル前ハ巡查ヲシテ消防ノ事ヲ執
ラシメ消防夫已ニ集レハ之ニ讓リ專ラ該場ノ亂雜及盜
難ヲ防キ且人民ノ困難ヲ救助スルヲ注意セシムヘシ

第五條 親族朋友等救拔ノ爲メ取着ルモノ、外無謂通行
或ハ傍觀スルキハ穩ニ之ヲ制止スヘシ
第六條 非番巡查ハ近傍火災アルヲ見聞スレハ直ニ出署

シ署長ノ指揮ヲ受クヘシト雖モ實際ノ模様ニ依リ直ニ
火事場ニ駆ケ着ケ出張ノ警部又ハ警部補ノ指揮ヲ受ク
ルコアルヘシ

第七條 鎮火ノ節ハ火災ノ原由及ヒ其狀況等取調警察本
部長ニ報告スヘシ

第八條 出張ノ警部警部補巡查ニハ辨當ヲ給スヘキニ付
警察者又ハ分署諸御用掛ニ於テ其用意ヲナシ人夫ヲシ
テ火事場ニ運搬セシムヘシ尤夜十二時ヲ過レハ一度ヲ
増給ス

但速ニ鎮火シ支度ノ時刻ニ及ハサル時ハ本文ノ例ニ
アラス

第九條 警察署又ハ分署近傍夜中出火アルキハ署名ヲ記
シタル臺提灯ヲ點火シ門前ニ差出ス可シ

第十條 近傍火災ノ節駆付人夫ノ人員(警察者ハ十名分署ハ三名)

明治十八年乙第九十號ヲ以テ改正

同上

同上

トス其賃錢ハ各署ニ於テ豫テ取極メ警察本部長ニ何定
メ置クヘシ

第十條 駆付人夫ハ各署ニ於テ左ノ諸項ヲ示シテ約定
シ置ヘシ

一 晝詰切 一人ニ付 金何錢

一 夜詰切 同 同

但支度ノ時刻ニ及ハ、辨當ヲ給シ半日半夜ノ節ハ右

賃錢ノ半ヲ給ス

一 諸物品ヲ他ニ運搬スル節ハ別ニ一人ニ付金何錢ヲ

給ス

一 人夫駆着直ニ引取ルキハ一人ニ付金何錢ヲ給ス

一 警察署ヲ距ル直經五丁以外ニテ延焼ノ患アラスト

見認ムルキハ駆着ニ及ハス

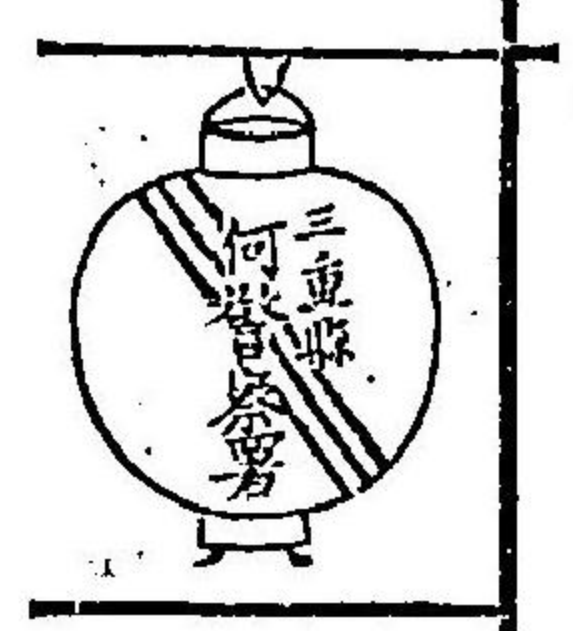
一 平常ト雖モ他行スル者ハ必ス代人ヲ立テ其住所姓

名ヲ届ケ出ヘシ

第拾貳條 目標持人夫ノ人員ハ一署一名トス其賃錢ハ豫テ取極メ警察本部長ニ伺定置キ約定方ハ第十一條ニ準シテ取計フヘシ

第拾三條 各署備付巡搬器具等左ノ如シ

- 一 竹長持 五棹以內
- 一 釣臺 一個
- 一 旗提灯 各一個



第拾四條 署内ニ於テ萬一失火ノ事アルキハ在署官吏小

使ニ至ル迄直ニ消防及帳簿物品取方付等臨機處分ヲナスヘシ四隣直接ノ人家失火シ延燒ノ患アル時モ亦同シ

○明治十六年警規第十五號達(本文ハ雜部ニアリ)

第六拾三項 火災消防哨筒備付ケ所左ノ如シ

- 津 四日市ノ警察署ハ 佛蘭西形壹個ツ、
- 松阪 桑名ノ警察署ハ 佛蘭西形壹個ツ、
- 山田 上野ノ警察署ハ 英形壹個ツ、

○警第九拾六號 明治十六年九月廿六日

警察署

水論取扱方ノ儀ニ付別紙ノ通經伺ノ處朱書ヲ通指令相成候條此旨爲心得相達候事

土進第七拾九號

水論取扱ノ義ニ付伺

第一條 爰ニ甲乙二個ノ井堰アリ 甲堰ハ上流其距離僅カ
 二一丁余ニ過キサルニヨリ濁水ノ期ハ甲堰ノ幾分ヲ乙

堰へ分水スヘキ旨舊藩ヨリ別紙ノ通り申渡爾來實絶スルノ早魁ナク經過シ來リシニ本年ニ至リ非常ノ渴水ニテ實施セサルヘカラサルノ場合ニ遭遇セリ依テ甲堰水掛人民ハ分水ノ義説論スルモ舊藩ノ申渡書ハ今日ニ於テ其効力ナ有セサルモノト云フ或ハ行政官ヨリ處分セラル、モノニ非スト主張シ其分水ヲ拒メリ然レモ前顯ノ如キハ舊慣ニ依ル勿論ニシテ既ニ去ル十年七月中水論取扱伺第四條ニ甲乙村ニ於テ豫定約書無之ト雖モ古來ヨリ申傳等有之上ハ其慣行ニヨリ縣廳ニ於テ實地點檢適宜水配候儀ト可相心得旨同年八月中御指令アリ況ンヤ舊藩ヨリノ確乎タル申渡書ヲ有スル上ハ右申渡書ニ基キ適宜處分ヲ爲シ可然哉

第二條 舊藩ニ於テハ庄屋年寄ノ上ニ組合頭ナルモノアリテ分水ノ節實地見分等ヲナセリ然ルニ廢藩以後ハ確

乎タル繼續人ナキニヨリ爾來關係村々戸長其他ノ者ヲシテ委員ヲ設ケ之レニ從事ナサシメ尙異論ヲ生スルハ行政官ニ於テ實地檢査ノ上斷決シ可然哉

第三條 分水ノ儀ハ甲乙村人民總代立會施行スルハ勿論タリト雖モ萬一人民不服ヲ唱ヘ立會ヲ拒ミ或ハ施行上ニ對シ妨害シタルトキハ警察官ノ公權ヲ以テ臨機ノ處分ヲナシ可然哉

第四條 行政官ニ於テ實際處分ニ臨ミ其處分ヲ不當トナシ控訴セシムルコトヲ口實トナシ右處分方ヲ拒ムト雖モ出訴以前ニ係ルモノハ斷然處分ヲナシ可然哉

右件々目下差掛居儀ニ付電報ヲ以テ御指揮相成候様致度此段相伺候也

指令 電信 (朱書) 十六年九月四日

本月八日附水論取扱方申出ノ趣ハ總テ伺ノ通り

○第五百拾五號 明治十八年九月十九日
 暴風警報取扱手續更正之義本年七月四日付第二拾九號ヲ以テ相達置候處今般内務省地理局ヨリ照會ノ次第有之更ニ左之通改正候條來ル廿一日以后當直ニ於テハ左ノ事故並別紙符號ノ用法ニ依リ取扱フヘシ
 右相達候事

一東京氣象臺ヨリ電報アレハ開緘シ暴風警報ナレハ直ニ別紙符號表ニ照シテ之ヲ譯シ長次官警部長勸業課長安濃郡役所津警察署伊勢新聞社作新日報ヘ急報シ且本廳
 揭示場ヘ揭示スヘシ
 一本廳揭示場ヘハ左ノ雛形ニ依リ朱書スヘシ
 何月何日東京氣象臺發警報
 警報全文ヲ掲シ

右揭示ス

年月日時間

一前項取扱濟其書類ハ翌日勸業課ヘ送付スヘシ
 (別紙)

氣象電報取扱心得

氣象臺ヨリ發スル氣象電報ハ都テ日本數字ヲ以テ符號トナスヲ以テ左ノ區別ニヨリ之ヲ譯スルヲ要ス
 一數字二個ヲ記シタル電報ノ符號次ノ如シ

警戒符號

| 符號 | 解釋 |
|----|-------------------|
| 一一 | 強風起ラントスルノ虞アリ |
| 二二 | 北ノ強風起ラントスルノ虞アリ |
| 三三 | 南ノ強風起ラントスルノ虞アリ |
| 四四 | 警戒ヲ繼ク |
| 五五 | 強風起ラントス天候甚ク不穩ノ虞アリ |
| 六六 | 北ノ強風云々同上 |

| | | | | | | | | | | | | | |
|----|----|-----|----|----|-----|----|----|-----|----|-----|----|----|----|
| 六二 | 六一 | 六〇 | 五九 | 三一 | 三〇 | 二九 | 二八 | 二七 | 二六 | 二五 | 二四 | 二三 | 二二 |
| 廈門 | 上海 | 浦潮港 | 元山 | 橫濱 | 神子元 | 沼津 | 濱松 | 長崎 | 甲府 | 名古屋 | 岐阜 | 津 | 境 |
| 四六 | 四五 | 四四 | 四三 | 五八 | 五七 | 五六 | 五二 | 五一 | 五〇 | 四九 | 四五 | 四七 | 三三 |
| 青森 | 宮古 | 石卷 | 福島 | 京城 | 仁川 | 釜山 | 根室 | 襟裳崎 | 宗谷 | 札幌 | 壽都 | 函館 | 浦和 |

| | | | | | | | | | | | | |
|---------|--------|--------|-------|--------|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|----|
| 七六 | 七五 | 七四 | 七三 | 四二 | 四一 | 四〇 | 三九 | 三八 | 三七 | 三六 | 三五 | 三四 |
| 津輕海峽ノ西方 | 日本海北部 | 日本海中部 | 日本海南部 | 朝鮮海峽 | 山形 | 新潟 | 伏木 | 金澤 | 銚子 | 水戸 | 宇都宮 | 前橋 |
| 九〇 | 八九 | 八八 | 八七 | 八六 | 七二 | 七〇 | 六九 | 六八 | 六七 | 六六 | 六四 | 六三 |
| 九州西部ノ沖 | 九州南部ノ沖 | 豊後海峽ノ沖 | 土州沖 | 紀伊海峽ノ沖 | 第七區 | 第五區 | 第四區 | 第三區 | 第二區 | 第一區 | 馬尼刺 | 香港 |

| | | | |
|----|---------|----|----------|
| 七八 | 北海道北部 | 九一 | 高知 |
| 七九 | 阿哥斯令海 | 九二 | 境 連線ノ近傍 |
| 八〇 | 津輕海峽ノ東方 | 九三 | 能登 連線ノ近傍 |
| 八一 | 仙臺灣ノ沖 | 九四 | 濱松 連線ノ近傍 |
| 八二 | 本洲極南東ノ沖 | 九五 | 伏木 連線ノ近傍 |
| 八三 | 駿河灣ノ沖 | 九六 | 東京 連線ノ近傍 |
| 八四 | 尾張灣ノ沖 | 九七 | 新潟 連線ノ近傍 |
| 八五 | 紀州沖 | 九八 | 秋子 連線ノ近傍 |
| 九九 | 臺灣 | | 石卷 連線ノ近傍 |
| | | | 青森 連線ノ近傍 |
| | | | 朝鮮 |
| | | | 上海沖 |

一 氣壓符號
 氣壓ハ別ニ符號ナシ其數字ニ字ノ上ニ七ノ字ヲ冠シ七
 何何ミリメートルト記スヘシ
 一 記事符號
 符號

譯

| | |
|---|----------|
| 一 | 晴雨計降ル |
| 二 | 晴雨計俄カニ降ル |
| 三 | 晴雨計最低ニ達ス |
| 四 | 晴雨計昇ル |
| 五 | 晴雨計俄カニ昇ル |
| 六 | 晴雨計不順ナリ |
| 七 | 一陣ノ強風アリ |
| 八 | 風力俄カニ加ハル |
| 九 | 天氣險惡ナリ |

一 方向符號(方向トハ氣壓最低度ノ進行スル方向ヲ云フ)
 符號

○ 氣壓最低度不動

一 全上 北東ニ向フテ進行ス

二 全上 東ニ向フテ進行ス

| | | |
|---|----|-------|
| 三 | 全上 | 南東ニ全上 |
| 四 | 全上 | 南ニ全上 |
| 五 | 全上 | 南西ニ全上 |
| 六 | 全上 | 西ニ全上 |
| 七 | 全上 | 北西ニ全上 |
| 八 | 全上 | 北ニ全上 |
| 九 | 全上 | 方向不詳 |

例

電信文

一一〇二四八九三

譯

強風起ラントスルノ虞アリ鹿兒島七四八ミリメートル
 ニシテ天氣險惡ナリ氣壓最低度ハ南東ニ向フテ進行ス
 電信文

三九四五六九

譯

伏木七四五ミリメートル晴雨計不順氣壓最低度ノ方向
 不詳

◎人命急變

○乙第三拾四號 明治十六年三月一日

郡役所

戶長役場

昨十五年九月第五拾號布告脱籍無産ノ輩復籍遞送規則及
 ヒ行旅病人取扱規則被廢候處途上ニテ天災又ハ疾病ニ罹
 リ進退ノ自由ヲ得サル者ノ如キハ警察署分署ニ在テ一時
 相當ノ保護致スヘキハ當然ニ候ヘ共其者ノ内重症ニテ佗
 ニ頼ルヘキ所無之者ハ該署ヨリ地元戶長役場へ可引渡候

明治十八年乙第百九十號ヲ以テ改正

條相當救護方可取計此旨相達候事

但本條引渡シ以後ニ屬スル費用有籍者ハ其身元ヨリ償還イタサセ本籍等詳ナラサル者ハ詳細仕譯書相添ヘ當應ヘ申出スヘシ

○明治十六年警規第十五號達(本文ハ雜部ニアリ)

第五拾三項 明治十五年第五十號公布ヲ以テ行旅病人

取扱規則等被廢候ニ就テハ自今重症危篤ノ病氣ニ係リ進退ノ自由ヲ得サルモノハ一時相當之保護ヲ加ヘ其地戸長役場ニ引渡スヘシ

○甲第百拾六號 明治十七年十二月廿四日

左ニ掲クル事故アルキハ本人親族隣佑若クハ戸長ヨリ速ニ所屬警察署又ハ分署ニ届出ヘシ此旨布達候事

但明治九年七月天甲第廿七號布達其他本文抵觸ノ令達ハ總テ廢止トス

事故

第一 被殺 被傷 自死 縊死 溺死

燒死 斃死 其相變死

第二 亂暴人 胡亂ノ者 發狂人 狂犬猛獸ノ害

人畜傳染病 藥 兒 迷子

第三 風火災水難 難破船

第四 神祭并供養會及蝗送諸興行 別段ノ成規ニ依リ出願スル者ハ此限ニア

ラ 其他群集雜沓ヲナス時

第五 諸會社牛馬市待合茶屋湯屋其他藝妓遊藝稼人ノ

開廢業又ハ移住營業スル時

第六 前項移住ノ地他警察署若クハ分署部内ニ係ルキ

ハ現住地移住地双方ノ警察署又ハ分署ニ届出ツ

ヘシ

第七 家出失踪及復歸ノ時

附甲第百七號 明治十八年十二月廿三日 (本文ハ營業ノ部ニ在リ)

一 警察事故届 明治十七年甲第ノ届

右ノ届ハ分署部内ノモノハ該署へ届出ヘシ

○乙第四十七號 明治十九年三月廿二日

部 役 所

戸 長 役 場

行旅死亡人并重病餓餓ニ迫ルモノ取扱手續別紙ノ通改正
來ル四月一日ヨリ執行ス

但本文抵觸ノ達并指令ハ同日ヨリ廢止ス

右相達候事

行旅死亡人及重症餓餓ニ迫ル者取扱手續

第一條 引取人ナキ行旅死亡人并ニ重病餓餓ニ迫ルモノ

救護ノ費用ハ左ノ金額ヲ最上限トシ其以内ヲ以テ適宜

取扱フヘシ

一金壹圓

死亡者一人ノ費額

是ハ假埋葬并屍体看守人足賃及棺桶繩其他必需品購

求費

一金貳圓

同上公告ノ費額

是ハ新聞紙へ兩度以上掲載費

一金二拾五錢

重病者一日ノ費額

是ハ療養費賄料其他小屋掛等一切ノ諸費

第二條 行旅死亡人ノ假埋葬ヲナシ又ハ重病人ヲ救護セ

シトキ三日以内ニ第四號書類ヲ添へ取扱ノ顛末詳細郡

役所ヲ經テ縣廳ニ届出ツヘシ

第三條 行旅死亡人ノ本籍氏名詳カナルモノハ第一號ヨ

リ第六號マテノ書類ヲ添へ其本籍戸長へ費用ノ償還ヲ

照會スヘシ

但倒死變死ニ係ルモノハ其判用セシ事由書并立會醫

師ノ檢案書寫ヲ付スヘシ

第四條 第一條ニ掲ケタル費用ハ戶長職務取扱費ヨリ一時繰替仕拂フヘシ若シ差支アルキハ其旨所轄郡役所ヘ申立郡役所ニ於テハ豫備費ヨリ繰替拂フヘシ

第五條 行旅死亡人ノ本籍詳カナラサルモノ公告滿期尙判明致サザルトキハ第二號(二通)第三號第六號其他取扱顛末書ヲ添ヘ第七號書式ニ據リ公告滿期后十日以内ニ該費受取方郡役所ヲ經テ縣廳ヘ申出ヘシ

但郡役所豫備金ヲ以テ既ニ繰替拂ヲ受ケタル分ハ第七號書類ヘ其旨記載スヘシ

第六條 本籍詳カナラサル死亡人ノ餘贏金ヲ保管スル場合ニ於テハ計算書ヲ添ヘ届出ヘシ

第七條 行旅病人重症餓餓ニ迫ルモノ他ニ救助スル者ナク目下捨置カタクキモノニ限り所在戶長ニ於テ醫療ヲ始

明治廿年訓令二百九十五號ヲ以改正

メ懇切ニ救護ヲ加ヘ其住所姓名等ヲ聞糺シ本籍詳カナル者ハ第四號第五號書類ヲ添ヘ直ニ本籍戶長ヘ引取方ヲ照會シ追テ其旨縣廳ヘ報告スヘシ

但本籍詳カナラサルモノ救護日數一周間以上ニ至ラハ醫師ノ診斷書ヲ添ヘ詳細現狀申出ヘシ

第八條 同上救護ノ費用本人辨償シ能ハサルトキハ第一號第六號本人所持ノ金品ヲ以テ其幾分ヲ辨償書類ヲ添

ヘ本籍戶長ヘ償却方ヲ照會スヘシ其本籍詳カナラサル者ハ第一號第三號第六號其他取扱顛末書類ヲ添ヘ處分方縣廳ヘ伺出ヘシ

第九條 本籍町村ノモノ行旅中死亡若シハ重症餓餓ニ迫リ其地戶長ニ於テ假埋葬又ハ救護ヲ受ケ該費用償還ノ照會ヲ受タルトキハ之レヲ其家ニ通示シ速ニ辨償セシムヘシ若其家赤貧ニシテ辨償シ能ハサル時ハ其戶長若

右之通相違無之候也

何郡何町村戸長

年月日

姓名印

第三號

行旅病死倒人何府縣何國何郡何町(又ハ本籍不詳)

何某遺物公賣代金仕譯書

一何々

代金何程

一、、

、、、、

一、、

、、、、

計金何程

右之通公賣取計候處相違無之候也

何郡何町村戸長

年月日

姓名印

第四號

住所姓名等開札書

何府縣何國何郡區何町村番地族

職業

何某長次男女

何ノ誰

但寄留所アレハ其寄留地ノ縣國郡區町村番地併記

スヘシ

一生年月又ハ年齡

一改姓名セシナアレハ舊姓名

一養子女或ハ他ノ附籍等ナレハ其實家ノ國郡區町村番

地姓名并戸主トノ續柄

一生國發途ノ原由及年月日并行先

一祖父母兄弟姉妹等アレハ同居別居ヲ區別シ其國郡區

町村番地姓名等

但親戚又ハ隣保ト雖モ原籍取調ニ必要ト認ムルモ
ノハ皆記スヘシ
右ノ通申立候也

何郡何町村戸長

姓名 印

年月日

第五號

診斷書

何府縣何國何郡區何町村族籍(又ハ本籍不詳)

何之能

一病名

一原因

一症候

一歩行難

一治法

明治二十年訓令第二百九十五號ヲ以テ改正

一豫后

右年月日何所ニ於テ遂診斷候處相違無之候也

何郡何町村

年月日

醫師姓名 印

何郡何町村戸長

姓名 宛

第六號

請取證

一金

内譯

金

何々

金

何々

金

右ハ何府縣何國何郡區何町村何某(又ハ本籍不詳行旅人)假埋葬

費或ハ藥價賄料何々料總テ實費御拂被下正ニ受取候也

何郡何町村

年月日

何ハ誰印

何郡何町村戸長

姓名宛

第七號

行旅死亡人假埋葬又ハ行旅中重症餓餓ニ迫ル者救護費用請求書

一金

内金

地方税ヨリ御下渡相成度分

本人遺金又ハ遺物公賣代金ヲ差繼ク

右ハ當町村何某又ハ長次男女何某儀行旅中年月日何府縣何國何郡區町村ニ於テ病死變死倒死致候ニ付假埋葬又ハ重症餓餓ニ迫リ救護ヲ受ケシ費用前書ノ通該町村戸長ヨリ通

知越候處別紙何某願書并証明書ノ通赤貧ニシテ辨償シ能ハサル者ニ付地方税ヲ以テ御下渡相成度此段及上申候也

何郡何町村戸長

年月日

姓名印

縣令宛

第八號

本籍不詳死亡人假埋葬費用請求書

本籍不詳

何之誰若クハ姓名不詳

生年月又何年位

一金

内金

地方税ヨリ御下渡相成度分

本人遺金又ハ遺物公賣代金ヲ以テ差繼クハキ分

右ハ年月日當村何字ニ於テ病死變死倒死致候ニ付何月何日及

御届置候處公告期限ヲ過クルモ尙ホ本籍不相分ニ付假埋
葬等ニ屬スル費用地方稅ヨリ御下渡有之度(尤該費ハ彙キ
ニ郡役所豫備費ヲ以テ繰替ヲ受ケタル義ニ有之候)別紙開
係書類相添へ此段上申候也

何郡何町村戸長
年月日
姓名 印

縣令宛

○鎖鋼

○甲第九十四號 明治十四年十一月三十日
明治十一年八月天甲第二百二十三號諭達及ヒ同年十二月天
甲第七十八號諭達廢止候條以來瘋癲人看護ノ爲自宅ニ
於テ鎖鋼スル者手續方左ノ通相心得ヘシ此旨諭達候事
第一條 瘋癲人アラハ他人ニ害ヲナサシメサル様固ク取

締ヲナスヘシ其之レヲ鎖鋼セントスル者ハ醫ノ診斷書
ヲ添へ親戚連署シ戸長ノ與書印ヲ受ケタル書面ヲ以テ
所管警察署へ届出ツヘシ
第二條 所管警察署へ届出ノ上自宅ニ於テ鎖鋼スル者ト
雖モ衣食ヲ屏去スル等奇酷ノ取扱ヲナスヘカラス
第三條 鎖鋼中ハ警察官吏臨時檢視シ取扱方照顧セシム
ルコトアルヘシ
第四條 瘋癲人疾病全瘉スレハ鎖鋼ヲ解クハ隨意タルヘ
シト雖速ニ所管警察署へ届出ツヘシ
附甲第七號 明治十八年十二月廿三日(本文ハ營業ノ
瘋癲人鎖鋼手續 明治十四年甲第
百九十四號布達ノ届
右ノ届ハ分署部内ノモノハ該署ニ之ヲ爲スヘシ
○甲第九拾五號 明治十四年十一月三十日
不長ノ子弟アリテ懲戒ノ爲メ己ムコトヲ得ス懲治場入ヲ願

ハント欲スル者ハ左ノ手續ニ依ルヘキ義ト可心得此旨諭
達候事

第一條 放恣不長ノ者アリテ己ムコトヲ得ス懲治場ニ入レ
矯正歸善セシメント欲スル者ハ其尊屬親ヨリ戸長ノ與
書印ヲ受ケタル願書ヲ以テ監獄本署ニ願出ツヘシ

但矯正歸善ノ爲メ懲治場ニ入ルヘキ者ノ年齢ハ滿八
歳以上滿二十歳以下ヲ限トス

第二條 懲治場入ノ者在場ノ時間ハ六ヶ月ヲ一期トシ二
年ニ過クルヲ得ス

第三條 第一條ニ依テ願意許可ヲ受タル者ハ監獄本署ヘ
本人ヲ帶行シテ指揮ヲ受ヘシ

第四條 入場中衣食費ハ其尊屬親故ノ自辨タルヘシ若シ
貧窮ニシテ費用ヲ辨スルコト能ハサル者ハ最初出願ノ初
リ其ノ趣ヲ願面ニ記載シ戸長ノ証明書ヲ添ヘ差出スヘ

第五條 尊屬親ニ於テ入場ヲ請ヒシ後テ別ニ教戒ノ道ア
リテ出場セシメントシ又ハ懲治人ノ行狀ヲ試ルタメ宅
舍ニ帶往セント欲スル者ハ其趣ヲ監獄本署ニ請願スヘ
シ

第六條 尊屬親ヨリ出場ヲ願ハスト雖モ本人歸善ノ實効
顯ハル、ニ於テハ監獄本署ニ於テ出場ヲ命シ其趣ヲ尊
屬親ニ通達スヘキニ付キ速ニ出頭シテ本人ヲ請取ルヘ
シ固リ遲滞スルコトヲ得ス

第七條 第五條第六條ノ場合ニ於テ本人ヲ出場セシムル
トキハ衣食ノ費用悉皆尊屬親ヨリ辨償スヘシ但貧窮者
ニシテ第四條末項ノ手續ヲ行ヒタルモノハ此限ニ非ラ
ス

◎難破及漂流物

〔地甲第四百拾七號〕 明治十年十二月一日

區 戶長 用掛

浦役人 同補助

漂着物取扱方ノ義明治八年第六拾六號及十年第貳拾九號
公布ニ準據スヘキハ勿論ニ候得共右届出ノ手順等猶左ノ
通可相心得此旨相達候事

但心得箇條中何届ノ廉ハ總テ所屬警察分署宛ニテ可差
出事

漂着物取扱心得

一漂着物及乗組人ナキ漂着船有之節ハ難破船漂流物取扱
規則第貳拾九條ニ依リ其調書ヲ作り之ヲ届出ヘシ尤物
品代價貳拾圓以上ト思量シ或ハ貳拾圓以下タリト必要
ノ品柄ト思量スルル及漂着現品ノ價像シメ保存ノ費用

明治十一年地甲第三十號ヲ以テ改正

ヲ償フニ足ラズ又ハ朽腐等ノ恐レアルモノハ届書中其
次第ヲ具スベシ

一規則第三拾條ニ照シ漂着ノ月日摸樣品名個數等ヲ詳記
シ浦港適宜ノ場所ニ揭示スベシ

一漂着船物保存一ケ年ヲ經テ持主分明ナラス及三ケ年以
内持主知レタル節ハ何レモ其都度處分方向伺出ヘシ

一前條處分ノ指令ニ依リ現品ヲ持主ニ渡シ及代價ノ幾分
ヲ取揚主ニ與フル等ノ節ハ後証ノ爲メ各自ヨリノ受取
書ヲ徴シ置シベシ

但持主知レサル時其公賣代價ノ内ヲ官納スル場合ニ
於テハ左ノ仕譯書ヲ添ヘ差出スベシ

漂着(船物)公賣金仕譯書

一金何程

公賣金高

内

保存費何々

金何程
殘金何程

内

金何程

取揚(見付)主
何町村何某渡

金何程

官納

右ハ年月日何地へ漂着船何舟大(漂着物品各個)公賣金前書
之通相違無御座候以上

第何大區何小區
區浦役人

氏名印

全

補助

氏名印

何警察何分署御中

一暴風雨等ノ爲メ流失ノ材木ヲ取揚グル時モ亦前條々ニ
準據ス可シ尤浦役人コレナキ各區ニ於テハ(北區)戸長北

戸長用掛)之ヲ取扱フモノトス

但甲村ノ流材ヲ乙村ニ取揚グルキ甲乙相對授受ヲ求

メ双方異議ナシ始末判然タルニタイテハ右情願ニ任

セ其段届出ツベシ

(丙第三號) 明治十年九月五日

浦役人

本年六月地乙第三十一號ヲ以テ相違候難破船取扱心得方
未條ニ左ノ一條ヲ追加候條此旨相違候事

追加

一保安物ヲ賣拂タル代價金高ノ内ヨリ仕拂フヘキ費用ノ
廉々若シ賣拂高ヨリ超過スルカ又ハ賣拂フベキ物品無
之時ハ左ノ書式ニ照シ明細帳ヲ作り差出ス可シ

費用明細帳

一金何程

保安料

是ハ保安物代金高幾分ノ壹
一金何程 救助ノ節人足賃幾人分
但壹人ニ付何程

以下諸費精算書ノ書式ニ準シ保安物代價ヨリ
仕拂フヘキ費用ノ金員事項ヲ列記ス
合計金何程

内
金何程 保安物賣拂金高別紙仕譯書
ヲ通

金何程 不足

右ハ別紙難破船明細書ノ通ニ有之候處保安物品賣拂金高
ニテ仕拂不足 或ハ賣拂フヘキ 物品無之ニ作ル 候ニ付前書不足金員御渡シ
被下度候以上

區名 浦役人
氏名 印
同 補助

船頭

水主

保安物賣拂金仕譯書

一金何程 何々

二金何程

合計金何程
右之通相違無御座候以上

署名同前

○天甲第五拾貳號 明治十一月三十日布達
暴風雨洪水等ノ爲メ船及ヒ諸物品流失スル節ハ速ニ左ノ
書式ニ準シ届書ニ通テ所屬戸長又ハ浦役人へ可差出此旨

明治十七年中第三十三號及明治十五
年中第六十六號ヲ以テ改正

布達候事

届書式

何品流失御届

鑑札番號或ハ烙印

一船長サ何間何尺幅何間何尺

一艘

但何石積船號何

附屬品

一何々

一材木長サ何間何尺寸角或ハ丸

何本

但シ檜杉松樫等木ノ品種及ヒ記號

一何品

何個

但シ記號等アラハ詳細ニ記スヘシ

右者私所有ニテ何所ニ繫キ置或ハ積置候處何年何月何日流失致

シ候間此段御届申上候也

何國何郡何町村何番地

年・月・日

何 / 誰印

何戶長某殿或ハ何浦役人某殿

○丙第四拾八號 明治十二年十月廿二日

沿海郡 役所

浦役場

明治十七年甲第三十三號ヲ以テ改正

西洋形商船之難破衝突等ノ災害ニ罹ルモノハ九年第八拾貳號公布條款ニ遵ヒ該船乘組船長以下海員ニ就キ其實況ヲ推究シ夫々所分可相成儀ニ付自今當管下ニ於テ西洋形商船之難破衝突等ノ災害ニ罹ルモノハ其船主ヨリ必ズ左之廉々詳細取調速ニ當應ヲ經由驛遞局へ届出候様同局長ヨリ照會有之候條成規ニ照シ處分ノ外該書面ヲ徴シ差出スヘシ此旨相達候事

漁船又ハ帆船船名

船長之本貫氏名并海技免狀之等級
運轉手同斷

漏船ナラハ機關手同斷

遭難ノ年月日時分

夜陰ナラハ燈火ノ有無

遭難ノ場所

航海中又ハ碇泊中

難破ノ因由

暴風ノ爲メ或ハ暗礁ニ觸レ若
クハ衝突

難破ノ景況

皆破或ハ沈没若ハ大破又ハ小
破

海員并乘客死傷ノ有無

積荷ノ存否

○乙第九十一號 明治十五年五月六日

郡役所

漂着物ヲ拾揚ケ或ハ流失物有之趣届出候得ハ漂着物ハ管

内各郡役所へ通知シ流失物ハ沿海及其河川下流ノ郡役所
へ通知之上具申可致此旨相達候事

○乙第八十九號 明治十七年五月九日

郡役所

戸長役場

内國船難破及流失漂着物取扱手續別紙ノ通改正候條此旨
相達候事

難破船及流失漂着物取扱手續

第一條 浦役人ハ八年第六十六號布告内國船難破及漂流

物取扱規則(以下單ニ規)第三條ノ報知ヲ得レハ速ニ現場

ニ出張シ救助方盡力可致ハ勿論猶左ノ場合ニ於テハ速

ニ所轄郡役所及警察署若クハ分署ニ報告スヘシ

一 大難破船

二 軍艦其他ノ官有船

明治十八年乙第九十號ヲ以テ改正

明治十八年乙第百八號ヲ以テ第六條ヲ刪除シ以下順次繰上ケ

- 三 官物ヲ積入ル、船舶
- 四 西洋形蒸氣帆前船
- 第二條 郡役所ニ於テ前條ノ報告ヲ得レハ速ニ郡吏ヲ派遣スヘシ
- 第三條 浦役人ハ郡吏警察官出張ノ上ハ總テ其差圖ヲ受クヘシ
- 第四條 難破船ノ節働人足賃ハ浦役人ニ於テ實際ノ難易時間ノ長短ヲ量リ適宜取定メ支給スヘシ最モ一人一日金三拾錢一晝夜金六拾錢ヲ超過スヘカラス
- 第五條 難破ノ爲メ小舟ヲ借入ル、節ハ前條ニ準據シ其借入賃ヲ支給スヘシ尤モ一艘一日金貳拾五錢一晝夜金四拾錢ヲ超過スヘカラス
- 第六條 難破船明細書ハ第一號或ハ第二號書式ニ照準シ

明治十八年乙第百三號ヲ以テ追加

- 二 通ヲ製シ現場救助方處分ノ後七日以内ニ浦役人ヨリ郡長ニ差出スヘシ
- 第七條 西洋形蒸氣帆走船ハ明細書ノ外第三號書式ノ書面ヲ徴シ明細書ト共ニ差出スヘシ
- 第八條 救助ニ係ル諸費ニシテ地方稅ヨリ支出ノ分請書ハ第四號書式ノ精算書二通ヲ添テ速ニ郡長ニ差出可シ
- 第九條 漁舟ハ明細書ノ外第八號書式ノ事項ヲ浦役人ニ於テ取調明細書ト共ニ差出スヘシ
- 第十條 郡長ハ第七條ノ明細書ヲ調査ノ上一通ヲ添テ縣令ニ報告スヘシ
- 第十一條 郡長ハ第九條ノ精算書及明細書ヲ審査シ果シテ不都合ナシト認ムルキハ郡役所豫備金ヲ以テ其費用ヲ下渡シ浦役人ヨリ正當受取人ノ領收書ヲ徴シ精算書ニ添付シ又規則第十一條或ハ第十五條ノ場合ニ於テ官

費ノ請求書ニハ第五號書式ノ浦役人仕拂証ヲ徴シ之ヲ添付シテ其繰替金ニ對スル請求書ヲ縣令ニ差出スヘシ
第十二條 遭難者ヨリ浦役人ニ對シ船主荷主ヨリ仕拂フヘキ諸費ノ仕拂証ヲ要求スルキハ之ヲ交付スヘシ

第十三條 以下漂着流失ノ部

浦役人(浦役人アラサル地)ハ規則第十九條ノ報知ヲ得ルキハ直ニ現場ニ至リ再流或ハ盜難等ノ憂無之様充分手當ヲナシ且第六號書式ノ事項ヲ取調ニ通テ製シ一通ヲ留置他ノ一通ヲ添テ郡長ニ報告シ並部内人民輻輳ノ場所ニ規則第三十條ノ日限内揭示スヘシ

第十四條 郡長ハ前條ノ報告ヲ得テ之ヲ縣令ニ報告シ各郡役所ニ通知シ並ニ浦役場及各戸長役場ニ達スヘシ但其通知ヲ受クル郡役所モ同様部内浦役場及各戸長役場ニ達スルモノトス

第十五條 流失ノ儀届出候ヘハ一通ヲ留置他ノ一通ヲ添テ郡長ニ報告スヘシ

第十六條 郡長ハ前條ノ報告ヲ得テ之ヲ縣令ニ報告シ沿海郡役所及其川面ニ係ル者ハ併テ川面下流ノ郡役所ニ通知シ部内浦役場及川面下流ノ戸長役場ニ達スヘシ但其通知ヲ受クル郡役所モ本文後段ノ通タルヘシ

第十七條 浦役場及戸長役場ニ於テハ豫メ郡長ノ達書及第十三條第十五條ノ調書及届書ヲ編冊シ流失漂着ノ達ヲ得ル歟或ハ届出候ヘハ一年以上ニ遡リ之ヲ照合シ其符合スル者ハ郡長ニ報告シ郡長ノ認許ヲ得テ引渡ノ手續ヲナスヘシ

第十八條 郡長ハ前條ノ報告ヲ得レハ第十四條及第十六條ノ手續ヲナスヘシ其報告ヲ受クル郡役所モ亦同シ

第十九條 規則第三十一條第二項第三十二條第二項ノ場

合ニ於テ之ヲ公賣スルモノハ浦役人ハ郡長ノ認許ヲ得
 テ之ヲ處分スヘシ
 第二十條 一ケ年ヲ過クルノ後遅クモ一ケ月内ニハ公賣
 ノ處分ヲ結了シ第七號書式ノ仕譯書ヲ添テ官納ニ係ル
 金員ヲ郡長ニ上納シ郡長ヨリ縣令ヘ右仕譯書寫ヲ添テ
 上納スヘシ
 第廿一條 接近ノ他府縣下郡區役所部内ヨリ漂着セシカ
 或ハ他府縣下郡役所部内ヘ流失セシト思量スルキハ郡
 長ヨリ直ニ其郡區役所ニ通知スヘシ
 但此場合ニ於テハ其旨縣令ヘノ報告書ニ附記スヘシ
 第廿二條 他府縣下郡區役所ヨリ直ニ郡役所ヘ宛流失漂
 着ノ義通知有之其部内ヨリ流失或ハ漂着セシ者ト思量
 スルキハ第十四條第十六條ノ例ニ倣ヒ部内浦役場及戶
 長役場ニ通達スヘシ

明治十八年乙第六十七號ヲ以テ追加

但此場合ニ於テハ其旨縣令ニ具申スヘシ
 第廿三條 他府縣下ニ於テ流失又ハ漂着スル者ニシテ縣
 令ヨリ通達アルモノモ第十三條以下ニ準據シ取扱フヘ
 シ
 第廿四條 漂流着木材ヲ取揚クルキハ一ケ年内ハ其代價
 十分ノ一二過キサル取揚料ヲ遣シ一ケ年ヲ過クレハ規
 則第三十一條第二項ニ據リ處分スヘシ
 (第一號)

西洋形難破船明細書

何府縣下何國何郡區何町村
 持主 何 某
 同
 船長 同
 同

機關手 同

同

運轉手 同

水夫 何人

乘客 同

帆走船〔蒸氣船內車〕

商船〔軍艦〕何々丸

木製〔鉄製或ハ鉄骨木皮等ノ類〕橋何本

長 何程 幅 何程 噸數 何程

馬力何程

遭難ノ時 何年何月何日何々午前後何時頃

遭難ノ地 何年何月何日何々港拔錨何々港ニ於テ

何日間碇泊シ同何月何日何々港ニ向ケ航海中何々

沖合ヨリ暴風雨ニ遭ヒ遂ニ何々沖合ニテ船体破裂

ス此遭難地ハ何々燈臺岬港若クハ著名ノ山岳或ハ市街等ヨリ東北何町何間ヲ距ル等ノ類遭難地ハ成ルベク詳細ナルヲ要ス經緯度ノ分明ナル者ハ之ヲ記載シ且略圖ヲ添付スベシ

難破ノ因由 暗夜暴風雨ノ爲メ針路ヲ失シ何々暗

礁ニ觸ル或ハ風帆ヲ破裂シ進退自由ヲ失シ何々海

岸ニ吹揚ラル等ノ類

難破ノ景狀 皆没或ハ修繕ニ堪ヘキカ或ハ船体機

械ノ幾分ヲ破損ス等ノ類

沈没セシ船舶ハ航海上暗礁ニ等シキ妨害アルヲ以

テ其狀ヲ一層詳細ニスヘシ

乗組人及船客ノ死傷 乗組人死〔幾人〕傷〔幾人〕船客死

〔幾人〕傷〔幾人〕

積荷ノ損否 流失何々何石或ハ何個何束等ノ類沈

沒(同上)(打荷)同上(濡破)同上
右ノ通相違無之此段上申仕候也

年月日

右船長

氏名印

〔其他乗組人ノ内重立タル者一名以上連署〕

郡浦(村)浦役人

氏名印

同立會浦役人

氏名印

郡長宛

(第三號)

日本形難破船明細書

何府縣何國何郡區何町村

持主 何 某

同

船頭 同

水夫 何 人

乗客 何 人

何反帆商船何々丸

石數 何 石 積

遭難ノ時以下第一號書式ニ同シ

(第三號)

遭難御届

漁船帆船何々丸

船長 本貫並海技免狀ノ等級

何 某

運轉手 同

同

●安寧門 難破及漂流

(漁船ナレハ機關手同斷)

遭難ノ年月日時分 (夜陰ナレハ燈火ノ有無)

難破ノ場所 何々港ヨリ何々港ヘ向ケ航海中何々

沖合ニ於テ(或ハ何々港碇泊中等)

難破ノ因由 暴風雨ノ爲(或ハ暗礁ニ觸レ若クハ衝

突等)

難破ノ景況 皆破(或ハ沈没若クハ大破又ハ小破)

海員並乘客死傷 (海員)死幾人傷幾人(乘客)幾人積

荷ノ損否 何々何程沈没若クハ流失又ハ濡破等

右遭難顛末御届申上候也

何府縣何國何郡區何町村

年月日

船主 何 某 印

(或ハ船長何某印)

農商務省管船局御中

(第四號)

諸費精算書

一金何程

船主荷主ヨリ仕拂フベキ分

丙

(或ハ國庫費支辨ノ分)

金何程

保安料

金何程

是ハ保安物代金何程二十分ノ一(或ハ十分ノ一等)

金何程

救助ノ節働人足賃幾人分

金何程

一人一日金何程ノ割

金何程

小舟賃幾艘分一艘一日

丙

小屋掛入費

金何程

廷何枚一枚ニ付金何程

金何程

繩何束一束ニ付金何程

金何程

竹何本一本ニ付金何程

金何程

何々

金何程
金何程

番人賃幾人幾晝(夜)
一人一日晝(夜)ニ付金何程
乗組ノ者怪我人療養費

内

金何程

何藥何服一服ニ付金何程

金何程

醫師施術料何人分一人金何程

金何程

晒木綿何尺一尺付金何程

金何程

何々

一金何程

歩合支辨ノ分

内 金何程

地方税

金何程

船主荷主ヨリ仕拂ベキ分

内

(或ハ國庫費支辨ノ分)

明治十八年乙第百八號ヲ以テ改正

金何程

買入品

内

金何程

薪何束一束金何程

金何程

炭何貫何百目一貫ニ付金何程ノ割

金何程

蠟燭何挺一挺金何程

金何程

何々

金何程

郵便電信飛脚賃

内

金何程

何所ヨリ何處へ郵便税

金何程

同飛脚賃

金何程

同電信幾音信

金何程

何々

右ノ通相違無之候也

船頭

氏名印

水主

氏名印

何郡何浦村浦役人

氏名印

同 立會浦役人

氏名印

(第五號)

仕拂証

一金何程

大難破船諸費

但別紙明細仕譯書之通ニシテ此支拂領收証書ハ地方費支辨ノ分ト混併記載セルニ付別ニ國庫費ノミニ對ス領收証無之候

右正ニ仕拂候也

明治何年何月何日

郡町村

浦役人

氏名印

(別紙)

大難破船救助ノ諸費仕譯書

一金何程

諸費

内 金何程

國庫費

内 金何程

地方費

此 譯

船主荷主ニ於テ支辨スベキノ處大難破ニ付國庫支辨ノ分

金何程

内 譯

金何程

働人足雇料

但救助ノ爲メ使用何人分一人ニ付金何程

金何程

小舟雇料

但同上何艘分一艘ニ付金何程

●安寧門

難破及漂流

| | |
|-----------------|---------------|
| 金何程 | 乘組人怪我人療養費 |
| 內 | |
| 金何程 | 何藥何服一服 = 付金何程 |
| 金何程 | 醫師施術料何人分一人金何程 |
| 金何程 | 晒木綿何尺一尺付金何程 |
| 金何程 | 乘組溺死人搜索人夫雇料 |
| 但人足何人分一人 = 付金何程 | |
| 金何程 | 全上埋葬費 |
| 內 | |
| 金何程 | 吊僧雇料壹度分 |
| 金何程 | 早桶何個一個 = 付金何程 |
| 金何程 | 何々 |
| 金何程 | 何々 |
| 金何程 | 歩合支辨ノ分 |

明治十八年乙第百八號ヲ以テ改正

| | |
|-----|------|
| 金何程 | 國庫費 |
| 內 | |
| 金何程 | 地方費 |
| 內 | |
| 金何程 | 薪何東 |
| 金何程 | 炭何俵 |
| 金何程 | 蠟獨何挺 |
| 金何程 | 筆何本 |
| 金何程 | 墨何挺 |
| 金何程 | 半紙何帖 |
| 金何程 | 何々 |
| 金何程 | 郵便稅 |
| 金何程 | 消耗品 |

內

金何程

何所~郵便一度何錢
切手何枚

金何程

報知人足賃

內

金何程

何所公用狀持一人雇料

金何程

救助人溺死搜索人夫雇料

何人夫何人分一人ニ付金何程

金何程

同上埋葬費

內

金何程

何々

金何程

何々

右ハ何府縣何國郡何所何某所有何九又ハ何號日本形何反
帆何石積或西洋形帆走蒸氣船何噸幾馬力ニ何府縣下何國
何郡何所何某外何名乘組明治何年何月何日何府縣下何國

何郡何所碇泊中(抜錨何府縣何國何郡何~航海中何國ヨ々
沖合ニ於テ)大難破ニ遭ヒ船体積荷ト併セ悉皆沈没ニ係ル
諸費仕譯明細之通相違無之候也

明治何年何月何日

何郡何村浦役人

氏名印

同立會浦役人

氏名印

(第六號)

見附主何郡何町村氏名

鑑札番號或ハ烙印

一何々舟

長何間何尺

幅何間何尺

一艘

何石積

附屬品何々

此見積代價金何程

取揚主何郡何町村氏名
 長何間何尺 記號何 何本
 未口何尺何寸
 長何間何尺 全 何本
 何尺何寸角 何 程

但記號等アレハ詳細之レヲ記入スベシ
 此見積代價金何程

右ハ何年何月何日何郡何村何川筋或ハ河海濱等)字何ニ於
 テ取揚ク(見附候事相違無之候也

年 月 日

何郡何町村浦役人戸長

何 某 印

明治十八年乙第六十七號ヲ以テ改此

(第七號)

漂着公賣仕譯書

一金何程

公 賣 金

内

金何程

保 存 費

殘金何程

内

金何程

官 收 金

金何程

取揚人何誰渡

漂着物名稱

杉丸太何本或ハ何々何個

拾揚場所

何郡何村沖合或ハ何川筋字何々

拾揚人住所氏名

何郡何町村何誰

拾揚ノ年月日

明治何年何月何日

右ノ通相違無之候也

年 月 日

何郡何村浦浦役人

氏 名 印

同 立會浦役人

氏 名 印

第八號

漁舟難破取調事項

一 漁船名稱及形体

本名 何 方言 何 石數 何 石

長幅 長何程 幅何程

船形船具 帆ヲ掲シル者櫓又ハ別ノ概略 揖ヲ用フル等ノ

一 製造年月及船賃

製造 何年何月 船價何程

一 漁業ノ種目

漁業 鰹釣トカ 鯨釣トカ 漁具 何々

○ 丙第十四號 明治十七年五月八日

浦役場

内國船難破及流失漂着物取扱手續別紙ノ通改正候條此旨相達候事

但從來是ニ關スル違ハ總テ相廢候事

(別紙同年乙第八十九號ト同一ナルニ付略ス)

○ 丙第拾六號 明治十九年六月二十四日

浦役場

難船溺死人行術不明ノ者及流失漂着物ニ關スル事項ニシテ官報府縣公報欄内ニ登載アルモノハ自今達書ヲ發セス候條右公報ニヨリ取扱ヘシ
右相達候事

◎ 遺失及埋藏物附逸走家畜

○ 甲第二百八號 明治十四年十二月十四日

凡ソ物品ヲ遺失シ又ハ之ヲ拾得ル者ハ物品相添所屬警察署へ届出ヘシ因テ明治十年七月天甲第百十二號及同年十一月天甲第百六十一號布達ハ自今廢止候條此旨布達候事

但警察署宛ヲ以テ分署へ届出ルモ妨ケナシ

○明治十六年警甲第一號達(本文ハ司法門ニ在リ)

第拾貳節 遺失物區處

第壹條 遺失物ヲ拾ヒ得ルノ届出アルキハ警察署ニ於テ之ヲ揭示シ其物品ハ該署ニ領置シ領置シ領置証ヲ下付スヘシ

但巨大ノ物品ハ便宜得者ニ保管セシメ請書ヲ徴スヘシ

第貳條 遺失者及ヒ拾得者口述ヲ以テ届出ルキハ第二號書式ニ據リ届書ヲ作り本人ニ讀聞セ署名捺印セシム可シ若シ署名捺印スル能ハサルモノハ其旨届書ニ記シ本人ノ名ヲ代書シ捺印セシムヘシ

第三條 得遺物中價額拾圓以上ト見認ムルモノ及拾圓以下ト雖モ物主ニ於テ必用ト思量スルモノ又ハ貨幣五圓

以上ノモノハ速ニ第三號書式ニ據リ新聞紙ヲ以テ廣告スヘシ

但廣告料ハ遺失物ノ價額中ヨリ支辨セシムルニ付其廣告料ヲ支辨スルニ足ラスト思料スルモノハ新聞紙

ニ掲載スルニ及ハス

第四條 得遺失物中貨幣五錢以上ハ速ニ銀行ニ付シテ切符ニ引換ヘ現金ト見做シテ領置スヘシ

第五條 遺失物ノ處分ハ物主及ヒ拾得者ニ示達シ物主ヨリハ其受取証ヲ徴シ拾得者ヨリハ領置証ヲ還納セシム其保管セシメタル物品ナルキハ請書ヲ下戻スヘシ

但一ケ年間經過ノ後物主ナクシテ拾得者へ給與シタルキハ受取証ヲ徴スヘシ

第六條 拾得者又ハ遺失者他管下人民ニシテ一時止宿又ハ旅行中ノ者ハ可成代人ヲ定メサセ届書ニ連署セシム

ヘシ

第七條 遺失物ノ價額ヲ爭フモノアルニ由リ評價人ヲ雇ヒタルトキノ給料ハ遺失物ノ價額中ヨリ仕拂ハシム可シ

第八條 官廳内ノ遺失物ハ何人ノ拾得スルニ論ナク一年内ニ物主アルハ之ヲ全給シ物主ナキハ官沒スヘシ

第九條 官ノ徽章タル物品ヲ拾得スル者ハ通常遺失物ヲ以テ處分ス

但一年内物主ナクシテ之ヲ得者ニ給スルキハ其徽章ヲ除キ去ルヘシ

第十條 私印ヲ拾ヒ得ル者ハ通常遺失物ヲ以テ處分シ其一年内ニ物主ナクシテ之ヲ得者ニ給スルキハ其印面ヲ滅却シテ給付スヘシ

第十壹條 官廳ノ文書又ハ郵便物ハ之ヲ該官廳又ハ郵便

局ニ交付シ其報勞金等ヲ拂ハシムヘシ

第十貳條 飲食物其他腐敗スヘキ物品ニシテ其價額五拾

錢未滿及必要ナラサル物品(印類ノ如キ)必要品ノ外ナク

ニシテ其代金拾錢未滿ト見認ムヘキモノハ直チニ拾得

者ニ全給シ其(前半ノ物)品ヲ云フ)五拾錢以上ト見認ムヘキモノハ

直チニ公賣シ其代金ヲ現物ト見做シテ領置スヘシ

但本文ノ處分ハ交番所ニ於テモ之ヲ行フヲ得故ニ其

拾得者ニ全給シタルキハ領收書ヲ其公賣シタルキハ

現金ヲ警察署ニ送付スヘシ

第十參條 湯屋或ハ飲食店等ニ於テ他客ノ物品ト換易セ

ラレ又ハ止宿人旅籠賃ヲ不拂逃走シタル跡ニ殘シ置ク

物品ニテ一年間物主ナキキハ其被換者又ハ店主ニ給ス

可シ

第十肆條 商店ノ物品ヲ買フト稱シテ其價ノ代リニ預ケ

置タル物品若クハ酒食代ノ引當ニ預ケ品ハ一年間物主
 不分明ナルキハ預リ主ニ全給スヘシ
 第拾五條 茶店酒肆等ニ於ケル預ケ品及ヒ遺失物一年內
 ニ物主分明ナラサレハ店主ニ全給ス可シ
 第拾六條 山林祠堂明屋等ニ於テ拾得タル物品ニシテ盜
 贓ニ疑ハシキモノト雖モ一年間物主知レサルキハ得者
 ニ全給ス可シ
 第拾七條 盜賊去リシ跡ニ捨置タル物品ニシテ其賊捕ニ
 就カス一年內物主知レサルキハ得者ニ給スヘシ
 第拾八條 在監人外役中遺失物及埋藏物ヲ得タルキハ一
 般ノ規則ニ依リ處分シ給與スヘキ物品及報勞金ハ其事
 由ヲ具シ監獄署ニ交付ス可シ
 第拾九條 遺失物處分ノ節拾得者死亡若クハ住所不分明
 ナルキハ其相續人又ハ親屬ニ給ス若シ相續人親屬ナケ

明治十六年醫甲第九號ヲ以テ改正

レハ之ヲ官沒スヘシ
 第貳拾條 埋藏物ノ古代ヲ徵スルニ足ル物品ヲ掘得タル
 キハ掘出シタル所ノ地名及ヒ形狀等ヲ詳記シ且畧圖ヲ
 添ヘ速ニ警察本部長ニ報告スヘシ
 第廿一條 遺失物ヲ得タルノ届出アルキハ之ヲ第四號帳
 簿ニ記シ第一號領置証ト割印シ物品ト同番號ヲ付シ其
 拾得者ニ物品ヲ保管セシメタルトハ其旨帳簿ニ記載シ
 主任者之ニ檢印スヘシ
 第廿二條 凡ソ遺失物處分ヲ結了シタルキハ第四號帳簿
 中最新届出ニ依リ記載シタル所ハ其處分ノ要旨及年月
 日ヲ朱書シ主任者之ニ檢印スヘシ
 第廿三條 分署ニ於テ遺失物ヲ拾ヒ得ルノ届出アルトキ
 ハ假ニ領置証ヲ作りテ下付シ物品ハ届書口述ヲ以テ届
 貳條ニヨリテ作ト共ニ速ニ警察署ニ送付スヘシ
 リタル届書

第廿四條 分署ヨリ拾得物ノ送付ヲ受ケタル署ハ領置証ヲ其交番所ニ回送シ分署ニ於テハ便宜ヲ以テ本人ニ下付スヘシ

第廿五條 左ニ掲クル帳簿其他書式ハ唯其概略ヲ示シタルモノニ付必ズ之ニ拘泥セス取扱上錯亂セサルヲ要ス

第一號領置証書式

何號

遺失物領置証

何府縣何郡何町村何番屋敷

何 某

一何々〇 主任者捺印

一何々〇

前記ノ通(正)ニ領置候ニ付此証下付スル者也

縣名何所

年月日

何 署 印

第二號屆書式

拾得物屆書

一何々

一何々

右何年何月何日(夜)何町村ニ於テ拾ヒ得候ニ付此段御届申上候也

前書ノ通相違無之ニ付拾得人ト共ニ署名捺印候也

拾得人何縣何郡何町村何番地

何 某 印

取扱人何警察署(分署)ニ於テ

年月日

官 姓名 印

附言埋藏物ヲ掘得テ届出ルモノモ此書式ニ準スルモノトス

第三號新聞紙廣告書式

拾得物廣告

一何々
一何々

右何月何日(夜)何郡何町村ニ於テ拾ヒ得訴出候者有之ニ
付心當リノ者當署へ可申出事

縣名

年月日

何 署

第四號帳簿書式

判印

何號

何府縣何郡何町村何番地

何 某

一何々○ 主任者檢印

一何々○

右何年何月何日(夜)何郡何町村ニ於テ拾ヒ得タル旨何月
何日届出ルニ付何々又ハ届出タル所巨大ノ物品ナルヲ

以テ前記ノ拾得者ニ保管セシム

何府縣何郡何町村何番地

何號

何 某

一何々○ 主任者檢印

一何々○

右何年何月何日何郡何町村字何地ニ於テ掘得タル旨何
月何日届出ルニ付何々

第五號受取証并請書々式

受取証

一何々

右何年何月何日何町村ニ於テ拾得シタルニ付其際御届
仕置候處今回物主ナキ旨ヲ以テ給與相成正ニ落手仕候
也

何府縣何郡何町村何番地

年月日 何某印

何警察署宛 請書

一何々

右何年何月何日(夜)何町村ニ於テ拾ヒ得タル處保管スヘキ旨御達ニ付御預リ申候處相違無之此段御請申上候也
肩書前ニ同シ

年月日 何某印

何警察署宛

○警第九拾三號 明治十六年九月十二日 警察署

鑑札手帖又ハ地券証等盜難或ハ遺失ニ係タルモノ見當リ候節引上方各府縣ヨリ照會ニ依リ警乙號ヲ以テ相達來候處爾來右達ハ相廢シ候條右ノ物件發見ノ都度其趣詳細本

部第二課へ通牒スヘシ此旨相達候事

○天甲第百十六號 明治十一年七月廿五日

近日犬種繁殖人物ヲ妨害スル者少カラス其妨害ノ景況ニヨリ處置方モ有之候條以來畜犬ハ畜主ニ於テ其住所姓名ヲ記シタル札ヲ付ケ置ク可シ此旨布達候事

○兵事

○三重縣訓令第四百九十九號 明治二十年四月二十八日

伊勢志摩全國南北牟婁郡

郡役所 警察署

戸長役場

明治十九年(十月)陸軍省令甲第三十九號召集條例第十四條ニ依リ左ニ擔任ノ細務ヲ規定ス

陸軍召集條例細務規定

第一條 召集ノ令アルル郡役所警察署戸長役場ニ於テハ
本規定第二條以下ノ條項ニ基キ各擔任ノ職務ヲ執行ス
ヘシ

但シ平時ニ在テモ豫メ職務執行ノ順序ヲ明ニシ發令
ニ臨ミ速ニ辨ヲ爲スヘキ方法ヲ規畫スヘシ

第二條 陸軍召集條例第廿七條ニ依リ郡駐在官ヨリ召集
令狀ノ送付アルル郡長ハ左ノ受領証書ヲ差出スヘシ

受領証書

一何々召集ニ付令狀何葉

右正ニ受領ス

年月日午前(後)何時分

郡長姓名印

郡駐在官宛

第三條 戸長ハ陸軍召集條例第三十一條ノ召集令狀ヲ各
自ヘ配達スル場合ニ於テ近衛兵員ノ寄留地ヨリ直ニ召

明治二十年訓令第八十九號ヲ以テ
改正

集地ニ到ルモノハ令狀裏面左方欄外ヘ左ノ通記載スヘシ

但シ參着日時地名ハ記入ニ及ハス

近衛召集地ハ東京某地

第四條 陸軍召集條例第二十八條二項ノ軍用旅舎ハ(縣道以上)

警察署ニ於テ指定シ旅舎臺帳ヲ備ヘ其町村姓名ヲ所屬
郡役所ヘ通知スヘシ

但本文ノ通知ニ依リ郡役所ハ土地ノ景況ヲ斟酌シ宿

泊料ヲ豫約シ置クヘシ

一標旗標燈ハ官ヨリ給セサルヲ以テ警察署ハ旅舎所有

ノ國旗高張提燈等ニ陸軍ノ徽章ヲ附着セシムヘシ

一枝道ニ在テハ軍用旅舎ノ設ケナキヲ以テ戸長ハ召集

ノ驅員兵員ヲシテ其宿泊セントスル町村ノ戸長役場

ニ就キ宿舍ヲ請求セシメ請求ヲ受ケタル戸長役場ハ

明治二十一年訓令第七號ヲ以テ改正

連ニ相當ノ手當ヲナスヘシ
一警察署同分署ハ河川渡津橋梁アル場所(港灣等)出張
ヲ要スル要地ハ平時之ヲ指定シ事ニ臨ミ差支ナカラ
シムヘシ

一警察署長ハ前各項中警察官ニ於テ執行スル事件其他
擔係官ノ配置等總テ準備ニ係ル事件ハ平時ニ於テ規
定シ置クヘシ

第五條 警察署長ハ陸軍召集條例第十九條ノ達ヲ受クル

キ直ニ部下ヲ指揮シテ前條ノ事務ヲ執行セシメ同條例
第廿八條第一項ノ調査ヲ嚴重ニ施行スヘシ

第六條 陸軍召集條例第十九條ノ達文ハ左ノ如シ

何 郡 役 所
何 警 察 署

明治二十年訓令第八十九號ヲ以テ
改正

明治二十一年訓令第七號ヲ以テ追加

第一月日充員召集第二充員召集(後備軍) 驅員召集(後備軍)

全 上

全 上

兵員召集ノ發令アリ

月日近衛充員召集ノ發令アリ年月日午前(後)參着

但寄留地ヨリ直ニ召集地ニ到ルモノハ東京(某地)

月日近衛後備軍驅員兵員召集ノ發令アリ年月日午前(後)

參着

但書前ニ全シ

年月日前(後)何時分發

知事姓名印

第七條 前條ノ達ヲ受領スルトキハ直ニ其時刻ヲ配シテ
ル返信ヲナスヘシ

第八條 陸軍召集條例第三十條ノ發令及旅費金交付ノ達

文並驅員ニ召集令狀ヲ配達スル文例ハ郡長ニ於テ豫テ
定メ置クヘシ

第九條 郡長ハ陸軍召集條例第三十條ニ依リ脚夫ヲ使用

スルノミニ止マラス臨機郡吏ヲ派遣シ急行ヲ以テ戸長
 一ニ之レヲ達シ併セテ旅費ヲ交付シ戸長ノ事務ヲ佐ケシ
 ムル等適宜速辨ノ方法ヲ用ヒ處理スヘシ
 第十條 陸軍召集條例第三十條及ヒ第三十一條ノ令狀ヲ
 郡役所戸長役場ヨリ各自ニ配達シタルキハ其受領証ヲ
 要ス故ニ郡役所戸長役場ニ於テハ平時豫メ其人員ニ應
 シ料紙(一人一紙)ヲ調製シ住所姓名ヲ記入シ置クヘシ
 但シ演習及點呼召集ノキ亦之ニ準ス
 第十一條 陸軍召集條例第三十條第三十一條ノ令狀ヲ配
 達シタル時ハ郡役所ニ於テハ左ノ第一號雛形ニ依リ其
 配達人郡役所戸長役場發着表ヲ調製シ五日以内ニ其地
 ナ發シ縣廳ヘ進達スヘシ戸長役場ニ於テハ第二號雛形
 ニ依リ召集記事ヲ調製シ七日以内ニ郡役所ヘ差出し郡
 役所ニ於テハ之レヲ取纏メ直ニ縣廳ヘ差出スヘシ

何郡役所部内何召集發着時總表

第一號雛形

縣廳郡役所間ノ里程 何里
 同發令到達 何月何日午前何時何分

| | | | |
|-------|-------------|----------|-----------|
| 戸長役場名 | 郡役所戸長役場間ノ里程 | 郡役所發令時間 | 戸長役場へ到達時間 |
| 何々何里 | 何丁 | 何日午前何時何分 | 全日午前何時何分 |

附言里程ハ丁位時間ハ分位ニ止ムヘシ

第二號雛形

何郡何戸長役場部内何召集記事

| | | | |
|------------------|------------------------|----------|------------|
| 戸長役場兵員 居住間ノ里程 | 戸長役場發令 兵員發令到達 時間 | 兵員發程時間 | 兵員住所姓名 |
| 何里何町 | 何日午前何時何分 | 何日午前何時何分 | 何町村 何之誰 |

一 驅員兵員令狀受領定時間内二十四時ニ發程スルヲ得

明治二十年訓令第八十九號ヲ以テ改正

サル者ノ姓名及事由

一不參人姓名及事由

一前集ニ關スル景況其他非常事件ハ詳細之ヲ記録スヘシ

一驅員令狀ヲ受領シ定時間ニ發程セシ者ノ姓名及發程時間

第十二條 戶長ハ陸軍召集條例第三十一條ニ依リ脚夫ヲ使用シ令狀ヲ兵員ヘ配達スルニ止マラズ臨機詰合吏員ヲシテ之レヲ配達セシムル等適宜速辨ノ方法ヲ用ヒ處理スヘシ

第十三條 歸休兵並ニ豫備役後備軍驅員兵員(近衛含有)ニシテ寄留地ヨリ直ニ召集ニ應シ又ハ近衛兵集合地ニ到ラント欲スル者ハ最初寄留ノ願届ト共ニ召集ノ命令ヲ通辨スヘキ者ヲ定メ後備軍司令官ヘ願出許可ヲ受ケシムヘシ

但本文通報者ハ本人所屬戶長役場部内町村ノ者ヲ撰定セシムヘシ

第十四條 戶長ハ陸軍召集條例第三十二條執行ニ際シ左ノ處分ヲ爲スヘシ

但本條各項中後備軍召集其他ニ關係アルモノハ之ヲ適用スヘシ

一陸軍召集條例第三十二條汽船ノ便アルモノトハ其沿道ニ在ル停車場又ハ出船場等ヲ指シタルモノニ付其旨驅員兵員ヘ指示スル

一第十三條ニ依リ許可ヲ得タル寄留者ノ令狀ハ其命令ヲ通報スヘキ者ニ送付シ直ニ通報人ヲ戶長役場ニ出頭セシメ其旅費ヲ交付シ速ニ之ヲ本人ヘ送付セシムヘシ其旅費額ハ本籍地ヨリ召集地近衛ハ演習召集ニ

明治二十年訓令第千八百九號ヲ以テ改正

明治二十一年訓令第七號ヲ以テ改正

限ル又ハ近衛兵集合地マテノ計算トス故ニ近衛ノ驅員兵員充員若クハ後備軍召集ノトキ集合地ヲ經ス召集地ニ到ル者ノ集合地ヨリ召集地迄旅費ハ近衛ニ於テ追給セラル、モノト心得サスベシ

一前項ノ驅員兵員通報人ヨリ送致シタル令狀及旅費ヲ受領スレハ廿四時以内(寄留地ヨリ近衛兵集合地ニ)ニ發程シ其召集地又ハ集合地ニ參着セシム

但シ近衛驅員兵員ニシテ直ニ召集地ニ到ルモノハ同副官ヘ届出サシムヘシ

一旅費支給ノ順序ハ戶長役場ニ於テ平時豫メ其準備ヲ爲シ置クヘシ

但シ受領証ノ如キハ金員住所姓名ヲ記シタル連名簿(前項寄留者ハ通報人)ニ調印セシムヘシ

一驅員兵員前項寄留者ハ通報人(旅費受領ノキハ令狀ヲ

明治二十一年訓令第七號ヲ以テ改正

戶長ニ出サシメ戶長ハ其裏面ニ年月日ヲ記入シ之レヲ返付スヘシ

一驅員(士)兵員召集ノ途中疾病又ハ川支其他ノ事故ニテ滯留シタルキ疾病ハ醫師ノ診斷書川支其他ノ事故ハ該地戶長又ハ憲兵部(憲兵ノ設クナキ地ハ警察署同分署)ノ証認書ヲ以テ參着ノ上届出サスヘシ

但シ戶長又ハ警察官ハ本文証認書ヲ請求スルモノアルキハ即時之レヲ付與スヘシ

第十五條 驅員下士兵員召集ノ途中疾病若クハ川支等ニ依リ旅費缺乏シ召集地又ハ近衛兵集合地ニ到リ難キモノアルキハ本人携帶ノ召集令狀ニ押捺スル印章ト豫テ送附ヲ受ケタル令狀ノ印章トヲ對照シ事實相違ナシト認ムルキハ郡役所戶長役場ニ於テハ其日數ニ應シ滯在日當一日金貳拾八錢ノ割ヲ以テ繰替本人ノ受領証ヲ徴

明治二十年訓令第千二百六十六號全
二十一年訓令第七號ヲ以テ追加

明治二十年訓令第千二百六十六號ヲ以テ追加下條順次挿下ケ

明治二十年訓令第千八百九十九號ヲ以テ改正

同上

シ速ニ發程セシメ若シ疾病ニ罹リ醫師診斷上歩行シ難キ者ト認ムルキハ車駕賃費ヲ線替支給スヘシ
但定時演習召集ノ時及藥價診斷料其他臨時ノ費用等ハ線替支給スルノ限リニアラズ

第十六條 戶長役場ニ於テ前條ノ旅費ヲ線替タルキハ其住所姓名兵種番號及其金員并其事由ヲ詳記シタル書面ニ本人受領証ヲ添ヘ郡役所ニ請求スヘシ郡役所ニ於テハ豫テ國庫金出納所ヨリ受領シタル金員中ヨリ支辨シ本規定第二十二條証書ニ其事由ヲ詳記シ包含精算ス可シ

第十七條 陸軍召集條例第四十二條ニ依リ召集ニ應シ難キ者ト雖モ令狀ハ其儘本人ニ渡し置クヘシ以下皆同シ
第十八條 陸軍召集條例第四十二條及ヒ第五十八條第七十四條第八十八條第百七條第百二十六條ノ豫備役後備

軍驅員(近衛含蓄)遂ニ疾病快愈セズ又ハ事故止マサルキ並ニ出頭ニ及ハサル達ヲ受ケタル者ノ令狀ハ郡長ヲ經テ郡駐在官ヘ返付セシムヘシ

第十九條 陸軍召集條例第四十三條及第五十九條第七十五條第八十九條第百八條第百二十七條ノ豫備役後備役兵員(近衛含有)中疾病其他ノ事故ニ依リ遂ニ召集ニ應スル能ハサル者並出頭ニ及ハサル達ヲ受ケタル者ノ令狀ハ戶長之ヲ取纏メ郡長ヲ經テ郡駐在官ヘ差出スヘシ

第二十條 陸軍召集條例第四十二條第四十三條第五十八條第五十九條ノ屆書ハ本人又ハ親族ヨリ必ズ二十四時以內ニ發送セシメ其兵員ノ分ハ戶長之ヲ取纏メ三日以內ニ郡駐在官ヘ差出スヘシ

第二十一條 陸軍召集條例第四十九條ニ依リ警報ヲ揭示スヘキ官衙公署中揭示場ナキ個所ハ豫メ其場所ヲ定メ置

クヘシ

但揭示場アル個所ト雖凡人民輻輳地ニハ尙ホ之ヲ揭
 ケ(其個所多キヲ要ス)又揭示場市街村落ノ偏僻ニ在ル
 所ハ更ニ公衆ノ注目スヘキ場所ヲ撰ミ揭示スヘシ
 第十二條 陸軍召集條例第五拾條第一充員召集竣ルノ期
 ハ其時ニ當リ各郡役所へ通達スヘシ

但シ同條及陸軍召集條例第八拾貳條召集旅費計算書
 原證書ハ左ノ如ク調製シ郡駐在官ニ移シ同官ノ奥書
 証印ヲ得テ縣廳へ差出スヘシ

(計算書)

三重縣何郡召集旅費計算書

一金何千圓

某地國庫金出納所又ハ某地國庫金
 出納所某地出納支所ヨリ領収高

内

金何千何百圓

別冊明細書之通旅費支出高

差引

金何百圓

別紙某地國庫金出納所又ハ某地國庫金
 出納所某地出納支所ヨリ受領證書ノ通

右之通相違無之候也

年月日

三重縣何郡長姓名印

原證書

明治何年何月歸休兵(豫備役驅員兵員)召集旅費明
 細書
 後備軍驅員兵員

一金何程

(主任)三重縣何郡書記姓名印

内譯

| | | | | | | | | |
|--------|----|---------------|---|----|-----|---|---|---|
| 住 | 所 | 入營地 (某集令時) | 里 | 程 | 金 | 員 | 姓 | 名 |
| 何國何郡何村 | 何々 | 何々 | 何 | 十里 | 金何程 | 何 | 何 | 某 |

右之通相違無之候也

年月日

三重縣何郡駐在官姓名職印

第十三條 陸軍召集條例第七拾六條第七拾七條第九拾條
第九拾一條ノ參着届ハ近衛兵集合地後備軍司令部所在地ニアラサルトキハ其地ノ府縣駐在所若クハ郡區駐在所へ届出サシムヘシ

第十四條 陸軍召集條例第九十六條ニ依リ郡駐在官ヨリ
演習令狀ノ送付アルキハ直ニ之ニ對スル旅費請求書ヲ縣廳へ差出スヘシ

第十五條 陸軍召集條例第七拾七條第七拾八條第七拾九條第
百廿七條ノ演習半マテニ參着シ難キ見認メテ爲スヘキ
例へハ日數三周日ニ在テハ十一日ヲ以テ前半數トスヘシ

第十六條 他府縣へ寄留中該地ニ於テ点呼ヲ受ケントス

ル者ハ其事由ヲ詳記シ寄留願届ト共ニ鎮臺後備軍司令官へ出願セシムヘシ

但シ本縣駐在所々轄内ニ於テ本文同様ノモノハ該駐在官へ願出サスヘシ

第十七條 点呼召集ニ參會スル兵員ハ可成滿期歸郷ノ片
支給ノ被服ヲ着用セシムヘシ

第十八條 正當ノ故ナク參集時限ニ後レ其當日ノ点呼ニ
列スルヲ得サルモノハ更ニ翌日或ハ次ノ点呼所へ參會
セシメラル、ノミナラス相當ノ處分ヲ受クルハ必然ニ
付兵員中心得達ナキ様平素兵長ニ於テ諭シ置クヘル
第十九條 陸軍召集條例第七拾八條兵長役場ニ備フル
兵員名簿ハ点呼召集施行ノ際最寄点呼所ニ於テ郡駐在
官ノ点檢ヲ受クヘシ諸令狀モ亦同シ

第二十條 陸軍召集條例第七拾八條ニ依リ編製スル充

明治二十年訓令第七號ヲ以テ改正

員名簿ハ到着日數ヲ記スルヲ要セス年度各兵科各部及
ヒ召集地(近衛ハ集合地)ニ分テ、毎町村末ニ若干人名ヲ記
入スヘキ餘白ヲ存シ置クヘシ調製シ又名簿中第二充員
ノ區分ヲ爲シ置クヘシ後備軍召集名簿モ概ネ之ニ準シ
編製スヘシ尙ホ第二充員召集ニ應スヘキ者ノ分界ハ後
備軍司令部又ハ分營所在地府縣駐在所ヨリ郡役所及ヒ
戸長役場へ通知アルヲ以テ之レニ準據編製スヘシ
但寄留地ヨリ直ニ召集ニ應スヘキ許可ヲ得タル者ハ
其指令ニ依リ其旨ヲ名簿ニ記入ス可シ

第卅一條 郡役所戸長役場ニ備置ク諸名簿及令狀軀員兵
員(近衛)ノ身上異動ヲ届出ル毎ニ加除訂正ヲ加フヘシ
但シ本條ノ異動ニ依リ人員ニ増減ヲ生スルモ第二充
員ノ分界ハ別命アルニアラサレバ之レヲ變更スヘカ
ラス

明治二十一年訓令第七號ヲ以テ改正

明治二十年訓令第八十九號ヲ以テ
改正

第卅二條 兵員名簿ノ加除ハ減員ハ朱抹シ増員ハ其入籍
町村分界ノ次ニ編入スヘシ

但シ在郷兵ナキ町村ニ入籍者アルキハ其町村ヨリ召
集地ニ近キ町村人名ノ次ニ編入スヘシ

第卅三條 陸軍召集條例第五十四條但書各身上ノ異動
ヲ生シ戸長ニ於テ令狀中訂正ヲ加フヘキモノハ歸休兵
及現役輜重輸卒ヨリ豫備役ニ豫備役ヨリ後備役ニ移リ
又ハ其所轄内ニ於テ轉籍旅費ニ異動ナキモノ若ク
ハ改姓名等ニシテ其他ハ郡駐在所へ訂正ヲ請フヘシ
但シ戸長ノ姓名ニ異動アルキハ戸長ニ於テ紙片ヲ貼
付シ訂正ヲ加フヘシ

第卅四條 他軍管(近衛ハ他師管)ヨリ入籍者ノ令狀ハ其都
度後備軍司令部ヨリ送付スヘシ
但他ノ軍管(近衛ハ他師管)へ送籍者及ヒ國民兵へ編入